

宮崎県の赤十字

令和3年度 事業計画
令和2年度 事業報告



救うを託されている。➤

活動資金へのご協力を、よろしくお願いいたします。
赤十字運動月間 5.1(Sat)～31(Mon)

寄付するあなたも赤十字です

赤十字 寄付



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

 **日本赤十字社 宮崎県支部**
Japanese Red Cross Society Miyazaki Chapter

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

ご 挨拶	2
I 支部の運営	3～4
II 会員と活動資金	5～9
III 事業の実施	
災害救護	10～17
血液事業	18～21
赤十字の講習	22～26
赤十字ボランティア	27～29
青少年赤十字	30～33
国際活動	34
広報活動	35～36
表 I 令和3年度日本赤十字社宮崎県支部一般会計歳入歳出予算総括表	37
表 II 令和2年度日本赤十字社宮崎県支部一般会計歳入歳出決算総括表	38
表 III 令和3年度日本赤十字社宮崎県支部行事計画表	39
表 IV 令和2年度日本赤十字社宮崎県支部行事一覧	40～41
参考資料	
赤十字基本原則	44
赤十字のはじまりと国際赤十字の現況	45
各国赤十字社・赤新月社等一覧	46
日本赤十字社の創立と現況	47～48
日本赤十字社の現勢	49
日本赤十字社宮崎県支部の沿革と現況	50～54
日本赤十字社宮崎県支部の現勢	55
日本赤十字社宮崎県支部地区分区一覧	56

ご 挨拶

県民の皆様には、日頃から赤十字事業にご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、世界では、戦争や紛争、気候変動に伴う自然災害の多発、新型コロナウイルス感染症の蔓延など、さまざまな問題に直面しており、その一方で、グローバル化が進み、あらゆる情報が瞬時に全世界を駆け巡り、ICTが社会のありようを大きく変えています。

国内に目を転じると、自然災害の頻発化・激甚化・広域化、コロナ禍といった問題に加えて、人口減少や少子高齢化という大きな課題に直面しており、それに伴い、国や地域の経済規模の縮小、地域社会における町内会などの住民組織による地域活動の縮小、高齢化に伴う多死社会の到来等により、地域において支援を必要とされる方々への包括的な支援・サービスのニーズが一層高まることが予測されています。

このような中、日本赤十字社は、目の前の苦しんでいる人を救うという目的を、日赤一丸となって果たし続けていけるよう、日赤創立150周年に向けた「日本赤十字社長期ビジョン」に基づき、事業戦略として、「災害や紛争時における支援の充実とレジリエンスの強化」「超少子高齢社会における地域の健康・安全な生活の追求」「多様化が進む社会における人道の輪の拡大」という3つの長期戦略に取り組んでいるところです。

これらの戦略を踏まえ、宮崎県支部では、令和3年度の重点項目として、近い将来の発生が危惧される南海トラフ巨大地震等の大規模災害や蔓延化する感染症の状況下での救護活動に備え、より災害対応能力の充実強化を図るとともに、地域コミュニティにおける防災教育の推進に取り組むこととしております。

また、新型コロナウイルスの影響により、1年延期となった九州八県支部合同災害救護訓練が宮崎市で開催されるため、ハード面だけでなくソフト面でも災害対応能力の強化を図ることとしております。

さらに、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、オンライン等によりICTを活用しながら、救急法等の普及を図るとともに、超少子高齢社会に対応するため、健康生活支援講習を核として、ボランティア等の赤十字のグループ力を生かし、地域包括ケアシステムへの貢献にも取り組むこととしております。

このような活動は、全て県民の皆様方からのご厚志によって賄われております。

より広く、県民の皆様や県内法人の皆様方のご理解とご支援が得られるよう、赤十字の活動について積極的に情報提供を行い、活動資金、赤十字会員の増強に努めて参りますので、今後とも宮崎県支部への温かいご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和3年6月

日本赤十字社宮崎県支部
支部長 河野 俊嗣

I 支部の運営

支部の運営については、評議員会での承認・決定事項を踏まえ、支部・地区分区・血液センターが一体となって事業推進に努めるとともに、奉仕団、青少年赤十字等との連携を図って円滑に運営しています。

令和3年度事業計画

1 会議等開催予定

会議名等	期日	場所
地区分区事務員研修会	4月23日	Web会議
第1回評議員会	6月予定	未定
第2回評議員会	2月予定	未定
地区分区事務委員会議	2月予定	未定
赤十字奉仕団宮崎県支部委員会	2月予定	未定

令和2年度事業報告

1 会議等開催状況

会議名等	期日	場所	備考
第1回評議員会	6月29日	—	文書審議
第2回評議員会	2月5日	—	文書審議
地区分区事務委員会議	2月15日	—	Web開催
赤十字奉仕団宮崎県支部委員会	2月24日	—	Web開催

※令和2年度の各種会議については、新型コロナウイルスの影響により文書審議又はWeb開催へ変更となっている。

※4月開催予定であった事務員研修会は、新型コロナウイルスの影響により開催を中止。各地区・分区事務員への伝達は書面送付により実施した。

2 厚生労働大臣感謝状伝達及び地区分区功労表彰（敬称略・順不同）

（10月22日開催の第45回宮崎県日赤有功会 表彰伝達式にて表彰）

(1) 厚生労働大臣感謝状（令和元年度社資功労）

市町村名	氏 名
日向市	西村 一女子

(2) 地区分区功労表彰

① 業務功労表彰

1) 金色有功章

地区分区名・役職名	氏 名
椎葉村	那須 さつき

2) 銀色有功章

地区分区名・役職名	氏 名
日南市	崎田 恭平

3) 日本赤十字社宮崎県支部長感謝状

地区分区名	氏 名	地区分区名	氏 名
宮崎市	岩切 洋子	延岡市	安達 久任
都城市	杉元 智子	都城市	川上 久美恵

② 赤十字会員増強運動功労表彰（令和元年度活動資金募集目標達成優良地区分区）

1) 活動資金目標額120%以上達成

えびの市地区・国富町分区・椎葉村分区・美郷町分区西郷・美郷町分区北郷・美郷町分区南郷

2) 活動資金目標額3ヶ年以上継続早期達成

高原町分区

3) 活動資金目標額早期達成

西米良村分区

Ⅱ 会員と活動資金

日本赤十字社の活動資金は、会員から毎年納めていただく会費と、その他の個人・法人・団体から広く寄せられる寄付金によって賄われています。

日本赤十字社では、毎年5月を赤十字運動月間と定めて、全国的に赤十字事業への理解と協力を求め、会員増強を図っています。

宮崎県支部においても、広報活動に力を入れると共に、地区分区をはじめ、区長、公民館長、民生委員、赤十字奉仕団等の協力をいただきながら、活動資金の確保に努めています。

令和2年度活動資金実績・令和3年度活動資金目標額

区 分	令和2年度実績			令和3年度目標額		
	目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)	目標額 (円)	前年度比 (%)	伸張額 (円)
一 般	124,000,000	105,606,075	85.2	115,000,000	92.7	△9,000,000
法人・団体	18,000,000	24,602,154	136.7	20,000,000	111.1	2,000,000
計	142,000,000	130,208,229	91.7	135,000,000	95.1	△7,000,000

令和3年度事業計画

1 赤十字大会等への参会

大会名	期 日	会 場	備 考
全国赤十字大会	5月20日	日本赤十字社 本社	新型コロナウイルスの影響により中止
宮崎県日赤有功会総会	未定	未定	
九州八県赤十字大会	11月11日	大分県総合文化センター	

2 活動資金確保の強化

- ① 赤十字支援型自販機の設置推進
企業・団体様ご協力のもと、売り上げの一部が活動資金へ寄付される自販機の設置を推進します。
- ② クレジットカードのポイントを利用した寄付プログラムの推進
㈱宮崎信販のご協力による、クレジットカードポイント寄付募集の周知を行います。
- ③ 遺贈・相続財産及び香典返しの寄付への取り組み
税理士会や弁護士会、葬祭事業者へ日赤宮崎県支部を紹介していただくよう依頼します。
- ④ 各種イベントと連動した活動資金の募集
イベント主催者の協力のもと、イベント参加者へ活動資金の説明と募集を行います。
- ⑤ 活動資金協力法人への重点的な働きかけ
寄付額増額のお願いや、協力のあった法人に対し同年度内に追加の協力依頼を行います。

⑥ 自治会未加入集合住宅への取り組み

自治体に加入していない集合住宅入居者へ広報誌等による直接的な呼びかけを行います。

令和2年度事業報告

1 赤十字大会等への参会

大会名	期日	会場	備考
全国赤十字大会	—	明治神宮会館	新型コロナウイルスの影響により中止
宮崎県日赤有功会総会	—	—	文書審議
九州八県赤十字大会	—	大分県総合文化センター	新型コロナウイルスの影響により令和3年度へ延期

2 宮崎県日赤有功会

赤十字の人道的任務を会員の総合力をもって支援し、赤十字事業を通じて人類福祉の増進に寄与することを目的に、日本赤十字社有功章受章者によって昭和48年11月8日に結成されました。

【会長】 鳥山 浩

【会員数】 個人 145人・法人195社（令和3年4月1日現在）

地域別会員数一覧

(1) 第45回総会

新型コロナウイルスの影響により文書審議にて実施

(2) 視察研修

新型コロナウイルスの影響により実施見送り

(3) 地域有功会（5地区）の協力

宮崎県日赤有功会の地域組織として5地区に有功会が組織され、有功章受章者への入会勧誘や会員相互の親睦会などが行われています。

	個人（人）	法人（人）	合計（人）
宮崎市	55	78	133
都城市	8	22	30
延岡市	15	29	44
日南市	8	13	21
小林市	7	7	14
日向市	12	13	25
串間市	0	1	1
西都市	3	4	7
えびの市	7	1	8
中部	3	2	5
北西諸県	4	3	7
児湯	12	9	21
東白杵	11	9	20
西白杵	0	4	4
合計	145	195	340

【地域有功会】

宮崎市・都城市・延岡市・日南市・日向市

【地域有功会役員】

（敬称略）

名称	氏名	名称	氏名
宮崎市日赤有功会	矢野久也	都城市日赤有功会	夏田康則
延岡市日赤有功会	岸上照夫	日南市日赤有功会	倉元良子
日向市日赤有功会	安藤幸市		

（令和3年4月1日現在）

3 令和2年度有功章・社長感謝状受章（彰）者名簿

（敬称略・順不同）

※ 名簿掲載の同意をいただいた方のみ記載しています。

【金色有功章：社資功労個人】

市町村名	氏名	市町村名	氏名
宮崎市	小村 通	宮崎市	菊池 清文
宮崎市	松浦 史朗	延岡市	山之上 司人
日南市	梅田 一成	えびの市	北鶴 敏章

【金色有功章：社資功労法人】

所在地	社名又は団体名	所在地	社名又は団体名
宮崎市	株式会社はまゆう電設 代表取締役 長友 廣志	宮崎市	一般社団法人 宮崎県測量設計業協会
宮崎市	株式会社みやえい 代表取締役 外山 政典	都城市	(株)ワサダ電気 代表取締役 早田 彰
都城市	稲元建設株式会社	延岡市	株式会社興電舎
延岡市	医療法人隆誠会 理事長 山崎 弘道	日向市	有限会社長友種鶏場 代表取締役 長友 清一郎
日向市	企業組合富高薬局	日向市	宮前建設 (株) 代表取締役 萱野 秀三
日向市	有限会社村山商事 代表取締役 村山 光志		

【銀色有功章：社資功労個人】

市町村名	氏名	市町村名	氏名
宮崎市	横山 計 邑	延岡市	松井 則子
日向市	山田 強 一	えびの市	齊藤 克子

【銀色有功章：社資功労法人】

所在地	社名又は団体名	所在地	社名又は団体名
宮崎市	孝情フェスティバルin宮崎実行委員会	宮崎市	イオケピネポリネシアンダングストゥルupp
都城市	有限会社ナガノ電設 代表取締役 長野 一正	都城市	ルヴェラ株式会社
都城市	宮崎幸和運輸 (有) 代表取締役 林 幸雄	都城市	有限会社黒木葬祭
延岡市	有限会社クリエイト	延岡市	株式会社南日本環境センター
延岡市	旭陽電業株式会社	小林市	小林市赤十字奉仕団
日向市	株式会社日向衛生公社	日向市	和光コンクリート工業株式会社
日向市	家村内科	国富町	医療法人社団順養会海老原病院 理事長 海老原 爲博
美郷町北郷	社会福祉法人平成会 特別養護老人ホームシルバースターうなまの里 理事長 高瀬 純一	高千穂町	高千穂地区農業協同組合
高千穂町	株式会社竹尾組 代表取締役 竹尾 通洋		

【社長感謝状：社資功労個人】

市町村名	氏名	市町村名	氏名
宮 崎 市	小 村 通	都 城 市	坂 口 衛
延 岡 市	岸 上 照 夫	日 向 市	安 藤 幸 市
えびの市	志戸本 宗 徳		

【社長感謝状：社資功労法人】

所在地	社名又は団体名	所在地	社名又は団体名
宮 崎 市	江坂設備工業株式会社	宮 崎 市	株式会社宮崎銀行 取締役頭取 杉田 浩二
宮 崎 市	株式会社宮崎太陽銀行 代表取締役頭取 林田 洋二	宮 崎 市	神崎建設工業株式会社
宮 崎 市	南九州尾園建設株式会社	宮 崎 市	株式会社 ダイワコンサルタント
宮 崎 市	宮崎交通株式会社	宮 崎 市	宮崎トヨタ自動車株式会社 代表取締役 佐土嶋 恒夫
宮崎市清武	有限会社産機サービス 代表取締役 河野 弘行	都 城 市	稲元建設株式会社
都 城 市	霧島酒造株式会社	都 城 市	都城市ふるさと納税振興協議会
都 城 市	株式会社ブンリ	都 城 市	株式会社九南
延 岡 市	湯川建設株式会社	日 南 市	有限会社創美 代表 倉元 良子
日 南 市	株式会社谷口重機建設	日 南 市	富岡建設株式会社 代表取締役 柳橋 恒久
日 向 市	株式会社創建 代表取締役 安藤 靖	日 向 市	チトセホーム株式会社 代表取締役 西山 哲郎
串 間 市	有限会社時任工業	西 都 市	株式会社宮本組
国 富 町	矢野損害保険株式会社	都 農 町	株式会社五幸建設

令和2年度活動資金募集状況一覧表

(単位：円)

		令和2年度 目標額	令和2年度実績額 (円)					計	達成率	令和3年度 目標額
			地区区分 収納額	支援型自販機 実績額	口座振替等実績額					
					法人	一般				
市 地 区	宮 崎 市	26,349,000	17,018,107	537,977	618,000	1,159,000	19,333,084	73.4%	25,928,000	
	宮崎市区	18,940,000	12,328,583	430,404	618,000	975,000	14,351,987	75.8%	18,955,000	
	宮崎市田野区	593,000	374,200	7,928	0	24,000	406,128	68.5%	558,000	
	宮崎市佐土原区	2,570,000	1,527,724	96,497	0	51,000	1,675,221	65.2%	2,454,000	
	宮崎市高岡区	1,546,000	1,367,000	0	0	3,000	1,370,000	88.6%	1,335,000	
	宮崎市清武区	2,700,000	1,420,600	3,148	0	106,000	1,529,748	56.7%	2,626,000	
	都 城 市	22,098,000	15,320,537	274,322	210,000	233,000	16,037,859	72.6%	18,893,000	
	延 岡 市	15,500,000	10,498,535	312,945	10,000	244,000	11,065,480	71.4%	13,144,000	
	日 南 市	8,425,000	8,612,783	11,741	0	35,000	8,659,524	102.8%	8,267,000	
	小 林 市	6,644,000	7,384,050	57,668	0	88,000	7,529,718	113.3%	6,400,000	
	日 向 市	7,772,000	7,965,298	12,283	0	73,000	8,050,581	103.6%	7,140,000	
	串 間 市	2,850,000	1,911,551	0	0	0	1,911,551	67.1%	2,208,000	
	西 都 市	4,210,000	3,103,374	67,952	0	40,000	3,211,326	76.3%	3,560,000	
え び の 市	3,392,000	4,706,000	12,048	0	168,000	4,886,048	144.0%	3,244,000		
地 区 計		97,240,000	76,520,235	1,286,936	838,000	2,040,000	80,685,171	83.0%	88,784,000	
北 西 諸 県	三 股 町	2,522,000	2,500,600	344	0	69,000	2,569,944	101.9%	2,481,000	
	高 原 町	1,418,000	1,773,951	6,795	0	10,000	1,790,746	126.3%	1,351,000	
	計	3,940,000	4,274,551	7,139	0	79,000	4,360,690	110.7%	3,832,000	
中 部	国 富 町	2,515,000	3,074,500	6,929	0	150,000	3,231,429	128.5%	2,495,000	
	綾 町	864,000	773,900	11,379	0	10,000	795,279	92.0%	819,000	
	計	3,379,000	3,848,400	18,308	0	160,000	4,026,708	119.2%	3,314,000	
児 湯	高 鍋 町	2,817,000	1,698,581	48,322	20,000	3,000	1,769,903	62.8%	1,976,000	
	新 富 町	1,881,000	1,164,000	12,000	0	85,000	1,261,000	67.0%	1,843,000	
	西 米 良 村	241,000	241,863	0	0	5,000	246,863	102.4%	193,000	
	木 城 町	643,000	650,323	0	0	0	650,323	101.1%	619,000	
	川 南 町	1,350,000	940,180	52,975	0	30,000	1,023,155	75.8%	1,342,000	
	都 農 町	1,484,000	1,216,850	0	0	34,000	1,250,850	84.3%	1,421,000	
	計	8,416,000	5,911,797	113,297	20,000	157,000	6,202,094	73.7%	7,394,000	
東 白 杵	門 川 町	2,144,000	2,325,346	52,525	0	24,000	2,401,871	112.0%	2,113,000	
	諸 塚 村	287,000	290,300	0	0	0	290,300	101.1%	238,000	
	椎 葉 村	491,000	585,501	0	0	0	585,501	119.2%	476,000	
	美 郷 町	1,027,000	1,185,199	19,380	0	0	1,204,579	117.3%	987,000	
	美郷町西郷区	382,000	481,500	0	0	0	481,500	126.0%	358,000	
	美郷町北郷区	290,000	388,000	19,380	0	0	407,380	140.5%	284,000	
	美郷町南郷区	355,000	315,699	0	0	0	315,699	88.9%	345,000	
	計	3,949,000	4,386,346	71,905	0	24,000	4,482,251	113.5%	3,814,000	
西 白 杵	高 千 穂 町	1,875,000	1,795,250	0	0	0	1,795,250	95.7%	1,786,000	
	日 之 影 町	679,000	606,250	20,590	0	0	626,840	92.3%	582,000	
	五ヶ瀬町	522,000	578,000	17,508	0	0	595,508	114.1%	494,000	
	計	3,076,000	2,979,500	38,098	0	0	3,017,598	98.1%	2,862,000	
分 区 計		22,760,000	21,400,594	248,747	20,000	420,000	22,089,341	97.1%	21,216,000	
地 区 分 区 計		120,000,000	97,920,829	1,535,683	858,000	2,460,000	102,774,512	85.6%	110,000,000	
支 部 一 般		4,000,000					5,213,519	130.3%	5,000,000	
支 部 法 人		18,000,000					22,220,198	123.4%	20,000,000	
総 合 計		142,000,000					130,208,229	91.7%	135,000,000	
							一般社資合計	105,606,075		
							法人社資合計	24,602,154		

Ⅲ 事業の実施

災 害 救 護

日本赤十字社は、日本赤十字社法及び定款、災害対策基本法、災害救助法、国民保護に関する法律等に基づいて災害救護活動を実施しています。

日本赤十字社が行う災害救護活動は、災害発生時の医療救護はもとより、被災者の「こころのケア」や被災者の生活面の支援など多岐にわたります。

このため、県内6つの病院を含めて8つの常備救護班を編成し、要員研修・訓練に努めるとともに、救援物資を備蓄し、有事に備えています。

また、こうした活動を県下で支援いただく防災ボランティアの養成にも力を入れています。

さらに、被災者に対して全国から寄せられる義援金を受け付け、被災者にお届けしています。

令和3年度事業計画

1 災害救護体制の充実

災害救護活動は、赤十字本来の使命に基づいた重要な事業であることから、次のとおり災害救護体制の充実強化を図ります。

(1) 支部の災害救護体制

① 九州八県支部合同災害救護訓練

毎年、九州八県の赤十字が持ち回りで実施している合同災害救護訓練が本県で実施されます。九州八県支部の相互支援体制ならびに訓練参加機関との連携強化を図ります。

訓練名	期 日	場 所
九州八県支部合同災害救護訓練	11月28～29日	日赤宮崎県支部 宮崎大学医学部附属病院

② 常備救護班対象の研修・訓練

災害が発生した際に迅速に活動が行えるよう常備救護班対象の研修・訓練を行います。

○ 常備救護班長・救護主事合同会議の開催

会 議 名	期 日	場 所
常備救護班長・主事合同会議	12月	日赤宮崎県支部

○ 全国赤十字救護班研修への参加

○ 日赤災害医療コーディネート研修会に参加

※ 宮崎県支部に災害医療コーディネータチーム設置

県内被災地における医療ニーズを把握し、災害医療活動の効率的かつ効果的な実施に関して専門的な助言を行う。

③ 県内自治体等が実施する訓練

国・県・市町村・防災関係機関及び民間協力団体で実施される防災訓練へ参加し、防災技術の向上と他参加機関との連携強化を図ります。

訓練名	期日	場所
宮崎県総合防災訓練	10月	延岡市他

④ 血液センターと連携した組織横断的な防災対策の強化

⑤ 防災ボランティアの訓練

訓練名	期日	場所
アマチュア無線赤十字奉仕団 県下非常無線通信訓練	6月, 9月	宮崎県内各地
災害時救援赤十字奉仕団野営訓練	9月	日本赤十字社宮崎県支部

※ 常備救護班

救護班名	所属医療機関	救護班名	所属医療機関
第1班	独立行政法人国立病院機構宮崎東病院	第5班	宮崎大学医学部附属病院
第2班	独立行政法人国立病院機構宮崎病院	第6班	宮崎大学医学部附属病院
第3班	独立行政法人国立病院機構都城医療センター	第7班	宮崎大学医学部附属病院
第4班	社会福祉法人愛泉会日南病院	第8班	日本赤十字社宮崎県支部 県立宮崎病院

(2) 救護資機材等の整備

① 宮崎県支部

通信指令車1台、救急車1台、資材運搬車1台、災害連絡車2台、エアテント4張、フレームテント1張、NBC災害除染セット1組、蓄電器1台を常時稼働できる状態にしておくため救護資機材の点検整備に万全を期し操作訓練を行います。

② 地区分区

災害連絡車、災害救援物資倉庫、非常炊飯釜セット等を要望に応じ整備します。

(3) 災害救援物資の整備

毛布・緊急セット・安眠セット・ブルーシート等の補充を随時行います。

(4) 救護看護師の養成

日本赤十字九州国際看護大学（福岡県宗像市）へ1人を支部長推薦し、国内外で活躍する看護師を養成しています。

○ 就学状況：1年生 1人・2年生 0人・3年生 0人・4年生 1人 合計2人

※ 支部長推薦学生の希望者には奨学金（年額60万円）を貸与しています。

令和2年度事業報告

1 災害救護活動

(1) 令和2年7月豪雨災害

- ① 熊本県支部へ災害対策本部支援要員2名を派遣（7/12～7/18）
- ② 熊本県人吉市に医療救護班1班を派遣し、避難所での救護活動を実施（7/26～7/29）
- ③ 日赤西米良村分区へ毛布20枚、タオルケット30枚、安眠セット10セットを搬送（7/6）

2 防災体制の強化

(1) 常備救護員の訓練

訓練名	期 日	場 所	参加者
宮崎県総合防災訓練	11月8日	延岡市他	※新型コロナウイルスの影響により令和3年度に延期
九州八県支部合同災害救護訓練	11月29～30日	日赤宮崎県支部 宮崎大学医学部附属病院	※新型コロナウイルスの影響により令和3年度に延期

(2) 防災ボランティアの訓練

訓練名	期 日	場 所	参加者
アマチュア無線赤十字奉仕団 県下非常無線通信訓練	6月	県内8地区	※新型コロナウイルスの影響により中止
	9月	県内8地区	※新型コロナウイルスの影響により中止

(3) 各県無線奉仕団との通信訓練 8県 8回

(4) 防災等に関する研修会・会議・イベント

研修会・会議・イベント名	期 日	場 所	参加者
宮崎市防災会議	5月	宮崎市民プラザ	※新型コロナウイルスの影響により書面審議
「防災の日」イベント	5月	イオンモール宮崎	※新型コロナウイルスの影響により中止
防災教育事業指導者 養成研修会	7月	日赤本社	※新型コロナウイルスの影響により中止
全国赤十字救護班研修会	8月	日赤大阪府支部	※新型コロナウイルスの影響により中止
県災害時救援赤十字奉仕団 野営訓練	9月	日南市	※新型コロナウイルスの影響により中止

3 救護資機材の整備

(1) 宮崎県支部整備・保守

- 自動体外式除細動器（AED）更新
- 自家発電機保守点検
- 業務無線保守点検
- 災害救援車両保守点検
- 非常用リチウムイオン蓄電池整備
- NBC災害防護服保守点検
- 新スプリアス規格対応の業務無線機器更新等整備工事

(2) 地区分区整備

特別事業交付金で下記のとおり整備しました。

整備品名	整備地区分区
災害救助物資倉庫	串間市地区
天幕	宮崎市地区・宮崎市地区田野・日向市地区
非常食炊飯釜	宮崎市地区
発電機	宮崎市地区・日向市地区・綾町分区・国富町分区

(3) 救護資機材の整備状況

品名	数量	品名	数量
業務無線 (157.73Mhz)		組立寝台	25
基地局	3	折畳寝台	5
陸上移動局 (車載型)	6	折畳リヤカー	2
陸上移動局 (携帯型)	8	野外炊飯器	3
業務無線 (416.2525Mhz)		発電機	8
基地局	1	〃	7
陸上移動局 (車載型)	7	浄水器	0
陸上移動局 (携帯型)	14	テーブルセット	1
アマチュア無線装置		投光機	6
基地 (HF・FM)	1	懐中電灯	8
基地・移動兼用	1	救護所毛布	0
移動用	7	裁ちばさみ	0
衛星携帯電話	1	ヘルメット	23
小電力トランシーバー	20	安全靴	64
中型救急車	1	作業服 (夏・男・上)	36
災害救援者 (指揮車)	1	作業服 (夏・男・下)	37
災害救援車 (トラック)	1	作業服 (夏・女・上)	31
災害救援車 (連絡車)	2	作業服 (夏・女・下)	38
医療セット	2	作業服 (冬・男・上)	21
携帯医療セット	2	作業服 (冬・男・下)	22
AED (自動対外式除細動器)	4	作業服 (冬・女・上)	21
血圧計	18	作業服 (冬・女・下)	27
マジックギブス	2	作業帽	60
〃	1	救護員ベスト	33
天幕	3	ウエストバッグ	16
エアテント (大)	2	携行バッグ (シルバー)	38
エアテント (小)	2	携行バッグ (黒)	8
フレームテント	1	ゴーグル	46
スクープストレッチャー	2	寝袋	16
災害救護用携帯型心電計	1	ボランティアベスト	245
担架	4	NBC災害除染セット	1
担架架台	10	バルーン型投光機	2

4 災害救援物資の備蓄及び配付等状況

(1) 宮崎県支部全体

物資名	R元年度末 備蓄数	R2年度 整備数	R2年度 配付数	R2年度 その他*	R2年度末 備蓄数
毛布 (枚)	4,853	64	258	124	4,535
ブルーシート (枚)	4,162	31	20	22	4,151
緊急セット (組)	911	4	52	31	832
安眠セット (組)	518	122	55	2	583
タオルケット (枚)	4,687	1	59	59	4,570
合計	15,131	222	444	238	14,671

*経年劣化等により、被災者への配布が難しくなった資材を廃棄または展示用や支部内他業務のために転用したもの

(2) 地区分區別備蓄状況

地区分区名	毛布(枚)	緊急セット (個)	安眠セット (個)	タオルケット (枚)	ブルーシート (枚)	ハイゼックス炊飯袋 (枚)	計
宮 崎 市	168	44	11	152	106	2,148	2,629
宮 崎 市	30	27	0	28	56	1,718	1,859
宮崎市田野	22	2	11	20	24	100	179
宮崎市佐土原	15	4	0	5	9	100	133
宮崎市高岡	17	6	0	59	14	100	196
宮崎市清武	84	5	0	40	3	130	262
都 城 市	83	27	0	85	53	1,620	1,868
延 岡 市	97	53	0	93	652	2,600	3,495
延 岡 市	33	11	0	23	613	2,300	2,980
延岡市北方	8	8	0	39	7	100	162
延岡市北川	11	17	0	17	8	100	153
延岡市北浦	45	17	0	14	24	100	200
日 南 市	78	25	0	50	53	1,100	1,306
小 林 市	40	9	0	54	38	738	879
小 林 市	2	3	0	6	9	538	558
小林市須木	20	6	0	32	15	100	173
小林市野尻	18	0	0	16	14	100	148
日 向 市	103	54	0	29	68	200	454
串 間 市	90	8	10	72	7	300	487
西 都 市	56	29	5	111	27	100	328
え び の 市	111	0	0	49	20	500	680
三 股 町	8	13	0	18	22	100	161
高 原 町	68	6	0	25	31	100	230
国 富 町	23	18	0	85	57	100	283
綾 町	41	6	0	51	2	100	200
高 鍋 町	45	12	0	55	34	100	246
新 富 町	19	7	9	9	21	100	165
西 米 良 村	14	15	6	34	10	100	179
木 城 町	2	1	0	8	7	100	118
川 南 町	37	18	12	0	20	600	687
都 農 町	13	17	0	20	3	100	153
門 川 町	44	10	0	27	30	100	211
諸 塚 村	15	23	0	0	0	100	138
椎 葉 村	35	14	30	12	65	6,100	6,256
美 郷 町	66	17	0	26	30	614	753
美郷町西郷	49	0	0	0	5	100	154
美郷町北郷	7	11	0	6	14	414	452
美郷町南郷	10	6	0	20	11	100	147
高 千 穂 町	66	7	4	27	23	100	227
日 之 影 町	75	18	0	28	41	100	262
五 ヶ 瀬 町	48	9	10	45	51	385	548
地 区 分 区 計	1,445	460	97	1,165	1,471	18,305	22,943

(3) 地区分區別配布実績

地区分区名	毛布 (枚)	緊急セット (個)	安眠セット (個)	タオルケット (枚)	ブルーシート (枚)	ハイゼックス炊飯袋 (枚)	計
宮 崎 市	14	6	0	31	0	390	441
宮 崎 市	10	5	0	31	0	320	366
宮崎市田野	0	0	0	0	0	0	0
宮崎市佐土原	0	0	0	0	0	0	0
宮崎市高岡	0	0	0	0	0	0	0
宮崎市清武	4	1	0	0	0	70	75
都 城 市	27	15	0	0	10	0	52
延 岡 市	14	7	0	0	8	0	29
延 岡 市	12	6	0	0	7	0	25
延岡市北方	0	0	0	0	0	0	0
延岡市北川	2	1	0	0	1	0	4
延岡市北浦	0	0	0	0	0	0	0
日 南 市	0	0	0	0	0	0	0
小 林 市	2	0	0	0	0	0	2
小 林 市	2	0	0	0	0	0	2
小林市須木	0	0	0	0	0	0	0
小林市野尻	0	0	0	0	0	0	0
日 向 市	97	0	0	0	0	0	97
串 間 市	1	1	0	0	0	0	2
西 都 市	31	8	0	0	2	0	41
え び の 市	2	0	0	0	2	0	4
三 股 町	2	1	0	0	0	0	3
高 原 町	13	0	0	0	0	0	13
国 富 町	0	0	0	0	0	0	0
綾 町	0	0	0	0	0	0	0
高 鍋 町	0	0	0	0	0	0	0
新 富 町	0	0	0	0	0	0	0
西 米 良 村	26	0	24	40	0	0	90
木 城 町	6	3	0	0	2	0	11
川 南 町	3	1	3	0	0	0	7
都 農 町	0	0	0	0	0	0	0
門 川 町	0	0	0	0	0	0	0
諸 塚 村	0	0	0	0	0	0	0
椎 葉 村	20	10	28	0	1	0	59
美 郷 町	0	0	0	0	0	0	0
美郷町西郷	0	0	0	0	0	0	0
美郷町北郷	0	0	0	0	0	0	0
美郷町南郷	0	0	0	0	0	0	0
高 千 穂 町	0	0	0	0	0	0	0
日 之 影 町	0	0	0	0	0	0	0
五 ヶ 瀬 町	0	0	0	0	0	0	0
地 区 分 区 計	258	52	55	71	25	390	851

(4) 上記払出にかかる被害状況別配布実績

区分	被害状況	住 家					避難所	その他	合計	
		全焼	全壊	流出	半焼	半壊				床上浸水
被災世帯 (世帯)		34	0	0	0	4	0	146	2	186
被災人員 (人)		86	0	0	0	10	0	176	3	275
配分物資及び配分数	毛布 (枚)	100	0	0	0	11	0	143	2	256
	ブルーシート (枚)	13	0	0	0	4	0	1	0	18
	緊急セット (セット)	38	0	0	0	4	0	9	1	52
	安眠セット (セット)	3	0	0	0	5	0	45	0	53
	タオルケット (枚)	21	0	0	0	9	0	22	3	55
	ハイゼックス炊飯袋	0	0	0	0	0	0	0	390	390

5 災害救援物資等配分基準

○ 配分基準

家屋の全半焼・全半壊・流失・床上浸水及び避難所に避難を要する場合

品名	配分数
毛布	原則として被災者1人に対し1枚 ※冬季（10月～5月）は被災者1人に対し2枚
タオルケット	原則として夏季のみ被災者1人に対し1枚 ※夏季：6月～9月
緊急セット	原則として1世帯（4人）に対し1セット
ブルーシート	原則として1世帯に対し1枚

注）上記の救援物資以外に安眠セットを配付する場合がある。

（内用品：キャンピングマット・空気枕・アイマスク・耳栓等）

品名	配分基準	配分数
安眠セット	体育館などの避難所に、集団で相当数が数日にわたって避難を要する場合。	原則として被災者1人当たり1セットとする。

※ 安眠セットは原則本社及び本社が指定する支部において保管する。

○ 特記事項

1. 災害状況や避難状況によっては、上記配分基準を変更して配付する場合がある。
2. 上記配分基準は非住家には適用しない。
3. ブルーシート（3.6m×5.4m）については、避難所等に避難する場合は配付しない。
4. 死亡者の出た場合は、家族構成から死亡者を除いた基準で配付する。
5. 安眠セットについては、原則として地区区分には配分せず、支部でのみ保管し、災害時に長期にわたって避難することになった場合には避難所へ持っていき、そこから配付することとなっている。しかし、被災の際に交通手段が断絶される事が想定される地区区分については、安眠セットを備蓄する場合がある。

6 臨時救護の実施状況

行事	件数（件）	日数（日）	救護員数（人）	患者数（人）
各種団体関係	2	2	2	0
赤十字関係	0	0	0	0
合計	2	2	2	0

7 国内義援金の募集状況

（令和3年3月末現在）

義援金名	件数（件）	金額（円）
東日本大震災義援金	40	254,840
平成28年熊本地震災害義援金	23	149,145
平成29年九州北部大雨災害義援金	9	4,069
平成30年7月豪雨災害義援金	10	15,485
令和元年8月豪雨災害義援金	9	82,423
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	9	100,386
令和元年台風第19号災害義援金	32	280,561
令和2年7月豪雨災害義援金	299	12,652,635
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	8	133,776
合計	439	13,673,320

血液事業

宮崎県・市町村と連携し献血の普及啓発を図るため、「愛の血液助け合い運動」や「はたちのキャンペーン」、「町、総ぐるみ献血参加運動」等を実施しました。

宮崎県内の医療機関で使用された輸血用血液製剤は、200mL全血由来製剤を1単位に換算して赤血球製剤56,158単位、血漿製剤15,635単位、血小板製剤70,920単位で、総数142,713単位でした。

また、分画製剤用原料血漿は、九州ブロック全体で目標141,611Lに対し、147,455Lを確保することができました。安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律の趣旨を踏まえ、年間を通じ血液を過不足なく供給するため、宮崎県・市町村と一体となって、献血を推進するとともに、献血運動の普及を図るため各種事業を実施しました。

献血の受入状況は「献血ルームカーリーノ」を362日開設しました。また、移動献血車を延べ499台稼働させ、県全体で41,699人の協力をいただきました。献血者の内訳は、200mL献血141人、400mL献血29,420人、成分献血12,138人、となりました。

令和3年度事業計画

献血種別	献血者目標（人）
200mL 献 血	131
400mL 献 血	29,867
成 分 献 血	13,482
合 計	43,480

令和2年度事業報告

1 普及啓発活動の推進

年間を通じて血液製剤を需給に応じ、医療機関へ供給するため宮崎県・市町村・各献血推進団体、宮崎県学生献血推進協議会等と一体となり各種事業を行いました。

まず、献血者の確保が厳しい時期に、「愛の血液助け合い運動」・「はたちの献血」、「町、総ぐるみ献血参加運動」等を実施し、安定確保に努めました。

また、宮崎県学生献血推進協議会の主催による「サマー献血」・「クリスマス献血」等のイベントを展開し、若年層を中心に献血協力を呼びかけました。

将来にわたって安定的に献血者を確保するための取り組みとして、10代・20代の若年層を対象にした献血の意義や血液の知識、命の大切さを知っていただくための献血体験学習や献血セミナーを高校や関係団体のご協力を得て開催し、多くの方に参加いただきました。

さらに、若年層の献血者と、複数回献血にご協力いただく方を確保するために、「ラブラッド」の普及、登録に務めました。

2 会議・研修会等の開催

- ライオンズクラブ献血推進セミナー
- 宮崎県献血推進協議会
- 保健所別献血推進連絡協議会

3 献血推進イベント等

- (1) 町、総ぐるみ献血参加運動
6月5日 北浦総合支所

- 6月12日 南郷町商工会
- 11月6日 舞鶴公園
- 11月20日 日南保健所
- 12月11日 山田総合センター、ミートショップながやま山田店
- 12月21日 宮崎市役所
- 12月23日 延岡市役所
- 2月4日 国富町役場
- 2月12日 ほんものセンター
- 2月19日 高崎総合支所
- 2月25日 三股町役場
- 3月2日 えびの市役所
- 3月3日 美郷町北郷支所、美郷町役場
- 3月4日 椎葉村役場
- 3月16日 日之影町役場
- 3月17日 高千穂町役場
- 3月18日 五ヶ瀬町役場
- 3月23日 西米良村保健センター
- 3月24日 川南町保健センター

(2) こいのぼり献血キャンペーン 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止

(3) 愛の血液助け合い運動 7月1日～31日

(4) 献血運動推進協力団体表彰式 10月6日（宮崎県庁 講堂）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、毎年開催の「みやざき愛の献血運動推進県民大会」を上記イベントに変更して開催。

(5) クリスマス献血キャンペーン 12月2日（宮崎サザンビューティ専門学校）

※ 宮崎総合学園

〃 12月8日（宮崎大学）

〃 12月10日（宮崎産業経営大学）

〃 12月20日（イオン日向店）

(6) はたちの献血キャンペーン 1月1日～2月28日

(7) 令和2年度宮崎県献血推進協議会 2月8日（書面開催）

(8) 各保健所献血推進連絡協議会 2月22日（中央保健所）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、日南、都城、小林、高鍋、日向、高千穂は書面開催。

4 献血者の内訳

献血の種類	200mL 献血	400mL 献血	成分献血	計
計画（人）	142	30,367	12,289	42,798
実績（人）	141	29,420	12,138	41,699
達成率（％）	99.3%	96.9%	98.8%	97.4%

5 輸血用血液製剤の内訳

（200mL 献血由来製剤を1単位として換算）

製剤名	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	計
計画（単位）	55,032	16,920	75,500	147,452
実績（単位）	56,158	15,635	70,920	142,713

6 令和2年度宮崎県市町村献血状況

保健所	市町村	計 画					実 績					400mL 献血 達成率
		200mL	400mL	成分	計	配車数	200mL	400mL	成分	計	配車数	
中 央	宮 崎 市	0	8,895	0	8,895	177.0	2	7,267	0	7,269	168.5	81.7%
	国 富 町	0	330	0	330	6.5	0	273	0	273	5.5	82.7%
	綾 町	0	170	0	170	3.5	0	145	0	145	3.0	85.3%
	計	0	9,395	0	9,395	187.0	2	7,685	0	7,687	177.0	81.8%
日 南	日 南 市	0	970	0	970	20.0	1	905	0	906	19.5	93.3%
	串 間 市	0	340	0	340	7.0	0	291	0	291	5.5	85.6%
	計	0	1,310	0	1,310	27.0	1	1,196	0	1,197	25.0	91.3%
都 城	都 城 市	0	5,000	0	5,000	94.5	3	5,100	0	5,103	96.5	102.0%
	三 股 町	0	280	0	280	5.5	0	239	0	239	4.5	85.4%
	計	0	5,280	0	5,280	100.0	3	5,339	0	5,342	101.0	101.1%
小 林	小 林 市	0	1,000	0	1,000	20.5	0	1,179	0	1,179	24.0	117.9%
	えびの市	0	510	0	510	10.5	0	482	0	482	11.0	94.5%
	高 原 町	0	190	0	190	4.0	0	214	0	214	4.0	112.6%
	計	0	1,700	0	1,700	35.0	0	1,875	0	1,875	39.0	110.3%
高 鍋	西 都 市	0	555	0	555	11.0	1	446	0	447	10.0	80.4%
	高 鍋 町	0	580	0	580	12.0	0	775	0	775	14.5	133.6%
	新 富 町	0	500	0	500	11.0	0	446	0	446	8.5	89.2%
	西米良村	0	80	0	80	2.0	0	87	0	87	2.0	108.8%
	木 城 町	0	100	0	100	2.0	0	66	0	66	2.0	66.0%
	川 南 町	0	330	0	330	7.0	0	243	0	243	6.0	73.6%
	都 農 町	0	150	0	150	3.0	0	140	0	140	3.0	93.3%
	計	0	2,295	0	2,295	48.0	1	2,203	0	2,204	46.0	96.0%
日 向	日 向 市	0	1,435	0	1,435	29.0	3	1,425	0	1,428	32.0	99.3%
	門 川 町	0	290	0	290	6.0	0	285	0	285	6.0	98.3%
	美 郷 町	0	110	0	110	2.5	0	107	0	107	2.0	97.3%
	諸 塚 村	0	60	0	60	1.5	0	77	0	77	2.0	128.3%
	椎 葉 村	0	75	0	75	2.0	0	71	0	71	2.0	94.7%
	計	0	1,970	0	1,970	41.0	3	1,965	0	1,968	44.0	99.7%
延 岡	延 岡 市	0	2,900	0	2,900	57.0	2	2,803	0	2,805	57.0	96.7%
高千穂	高千穂町	0	275	0	275	6.0	0	352	0	352	6.0	128.0%
	日之影町	0	80	0	80	2.0	0	102	0	102	2.0	127.5%
	五ヶ瀬町	0	80	0	80	2.0	0	94	0	94	2.0	117.5%
	計	0	435	0	435	10.0	0	548	0	548	10.0	126.0%
移動献血車計		0	25,285	0	25,285	505	12	23,614	0	23,626	499.0	93.4%
献血ルーム		142	5,082	12,289	17,513	363	129	5,806	12,138	18,073	362	114.2%
合 計		142	30,367	12,289	42,798	868	141	29,420	12,138	41,699	861	96.9%

(成分献血は献血ルームカーリーノにおいてのみ実施)

令和2年度献血功労者表彰名簿

厚生労働大臣 表彰状・感謝状	宮崎県知事感謝状	日本赤十字社	
		有功章	宮崎県支部長感謝状
(表彰状)	(感謝状)	(金色)	(金柀)
独立行政法人 地域医療機能推進機構 宮崎江南病院 [1団体]	宮崎県漁業協同組合 連合会 株式会社ナフコ ホームプラザナフコ 佐土原店 スーパーセンター ニシムタ五十市店 社会福祉法人善仁会 複合型福祉施設 仁の里 北浦漁業協同組合 [5団体]	宮崎第一信用金庫 宮崎オーシャン ライオンズクラブ 日南ライオンズクラブ 都城警察署 [4団体]	航空自衛隊高畑山分屯基地 都城市消防局 宮崎県立産業技術専門校 東郷メディキット株式会社 日向工場 [4団体]
(感謝状)		(銀色)	(銀柀)
宮崎神宮 串間ライオンズクラブ イオン九州株式会社 イオン都城店 有限会社サンシールさの 延岡地区建設業協会 [5団体]		宮崎地区電気工事業 協同組合 株式会社 都城北諸 地区清掃公社 えびのライオンズクラブ 株式会社南日本環境 センター [4団体]	宮崎地区建設業協会 トヨタカローラ宮崎 株式会社 西諸広域行政事務組合 消防本部 尾鈴農業協同組合 都農支店 日向ロータリークラブ 日向東ロータリークラブ 日向中央ロータリークラブ 医療法人社団 光学堂 あたご整形外科 [8団体]

敬称略

赤十字の講習

人間のいのちと健康を守るという赤十字の使命を実現するため、事故防止の思想を普及するとともに、救急法（応急手当の方法）、健康生活支援講習（高齢化社会に対応した支援・介護予防の知識）、幼児安全法（こどもの病気、事故の予防と応急手当）、水上安全法（水の事故防止の方法）等の講習を地域、職域、学校等で行っています。

令和3年度事業計画

日常生活における事故防止の思想と、身近な事故や危険から身を守るとともに、不慮の事故・急病に対する応急手当や自然災害などへの対応能力を高めるため、一般市民に対し、救急法をはじめとする赤十字講習を積極的に実施していきます。

特に、超少子高齢社会に対応するために、国が進める「地域包括ケアシステム」の構築に、健康生活支援講習の普及をもって貢献していきます。

また、感染症等流行下における講習普及事業継続の安定化を図る目的で、Web会議システムを活用したオンライン講習を導入します。

1 救急法の普及

病気やけが、災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師や救急隊に引き継ぐまでの救命手当・応急手当を行うための知識と技術を身につけるための講習を行います。

(1) 救急法基礎講習（4時間）

手当の基本、胸骨圧迫の方法、人工呼吸、AED（自動体外式除細動器）の使用法、気道異物除去の方法などを講習します。

(2) 救急員養成講習（10時間）

日常生活の中で発生頻度の高い、けがに対する止血や骨折時の応急手当の方法、傷病者の搬送方法などを講習します。

(3) 短期講習の実施（2時間程度）

地域・学校・職場等からの要望に応じて、救急法基礎講習・救急員養成講習教本から項目を絞って講習します。

【講習開催計画】

講習種別	実施回数（回）	受講人員（人）
救急法基礎講習	15	150
救急員養成講習	6	120
短期講習	57	2,850
合計	78	3,120

(4) 救急法指導員研修会の実施（1年1回）

指導員に対して、新たな情報の伝達と実技指導の向上を図ります。

(5) 世界赤十字デー・世界救急の日事業の開催

国際赤十字・赤新月社連盟が主唱する世界赤十字デー・世界救急の日として5月と9月に県下9地区で救急法普及活動を開催します。

2 健康生活支援講習の普及（地域包括ケアシステム構築への貢献）

日常的な健康生活支援に加え、急速に進む高齢社会に対応した支援・介護の知識を持った人々を養成するため次の講習を行います。特に、この講習は、地域包括ケアシステムが掲げる「介護予防・生活支援」の分野に寄与する内容を多く含むことから、県下全域での普及を目指しています。

(1) 支援員養成講習（12時間）

誰もが迎える高齢期を健やかに迎えるために必要な健康管理の知識や高齢者支援・自立に役立つ介護技術などを講習します。

(2) 短期講習の実施（2～3時間程度）

地域・学校・職場等からの要望に応じて、健康生活支援講習の教本の中から項目を絞って講習します。

(3) 災害時高齢者生活支援講習

災害が高齢者の心と身体に及ぼす影響について学び、災害時に高齢者を支援するために必要な知識と基本的な技術を講習します。

【講習開催計画】

講習種別	実施回数（回）	受講人員（人）
支援員養成講習	6	120
短期講習【災害時高齢者生活支援講習を含む】	46	2,300
合計	52	2,420

(4) 健康生活支援講習指導員研修会の実施（1年1回）

指導員に対して、新たな情報の伝達と実技指導の向上を図ります。

3 幼児安全法の普及

幼児が万一の事故や急病になったときに必要な手当の知識と技術を学ぶ幼児安全法の講習を行います。特に子育て支援事業として、いつも幼児の身近にいる保護者と保育士・幼稚園教諭、子育て支援ボランティア等の対象者を中心とした講習を行います。

(1) 支援員養成講習（12時間）

「こどもの成長発達について」・「こどもに起こりやすい事故の予防と手当」・「こどもの看病の仕方」などの講習を実施します。

(2) 短期講習の実施（2時間程度）

地域・職場等からの要望に応じて、支援員養成講習の教本の中から項目を絞って講習します。

【講習開催計画】

講習種別	実施回数(回)	受講人員(人)
支援員養成講習	1	20
短期講習	26	1,300
合計	27	1,320

- (3) 幼児安全法指導員研修会の実施(1年1回)
指導員に対して、新たな情報の伝達と実技指導の向上を図ります。

4 水上安全法の普及

水の事故から命を守るため、必要な知識と技術を広める講習を行います。

【講習開催計画】

講習種別	実施回数(回)	受講人員(人)
短期講習	2	100
合計	2	100

令和2年度事業報告

新型コロナウイルス感染症の流行により、接触機会の多い講習普及事業の多くは中止や延期となりました。

- ◎ 「9月・世界救急の日」救急法・幼児安全法講習

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

1 救急法

- (1) 指導員市町村別一覧

市町村	指導員数(人)	市町村	指導員数(人)	市町村	指導員数(人)
宮崎市	47	日向市	6	五ヶ瀬町	2
都城市	9	西都市	4	椎葉村	1
延岡市	13	三股町	2	霧島市	1
日南市	7	高原町	1	合計	102
小林市	7	高千穂町	2		

- (2) 講習会の開催

- ① 救急員養成講習

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

② 基礎講習

回数	期 日	講習主催・会場	対象	受講者数(人)	認定証取得者数(人)
1	3月29日	宮崎県立日向高等学校	生徒	9	9
2	3月30日	宮崎県立日向高等学校	生徒	8	8
合 計			2回	17	17

③ 短期講習

市町村	実施回数(回)	受講者数(人)	市町村	実施回数(回)	受講者数(人)
宮 崎 市	35	354	日 南 市	3	80
延 岡 市	1	56	高 鍋 町	1	6
			合 計	40	496

2 水上安全法

(1) 指導員市町村別一覧

市町村	指導員数(人)	市町村	指導員数(人)	合 計	指導員数(人)
宮崎市	4	高鍋町	1		

(2) 短期講習(1回2時間程度)

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

3 幼児安全法

(1) 指導員市町村別一覧

市町村	指導員数(人)	市町村	指導員数(人)	市町村	指導員数(人)	
宮崎市	14	延岡市	4	日向市	4	
都城市	5	日南市	5	三股町	1	
			小林市	3	合 計	36

(2) 講習会の開催

① 支援員養成講習会

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

② 短期講習

市町村	実施回数(回)	受講者数(人)	市町村	実施回数(回)	受講者数(人)
宮崎市	6	124	三股町	1	10
都城市	2	16	都農町	1	10
延岡市	3	20	国富町	1	10
			合計	14	190

4 健康生活支援講習

(1) 指導員市町村別一覧

市町村	指導員数(人)	市町村	指導員数(人)
宮崎市	5	小林市	2
延岡市	1	日南市	1
		合計	9

(2) 講習会の開催

① 短期講習

市町村	実施回数(回)	受講者数(人)	市町村	実施回数(回)	受講者数(人)
宮崎市	7	177	川南町	1	36
延岡市	1	16	高原町	1	24
都城市	1	11	五ヶ瀬町	1	15
えびの市	1	17	椎葉村	1	15
都農町	8	89	合計	22	400

赤十字ボランティア

人道の精神を胸に、さまざまな形態で活動するボランティアは赤十字活動の主体です。地域ごとに結成されている『地域赤十字奉仕団』と特殊な技能を生かして活躍する『特殊赤十字奉仕団』、青年の若い力を社会に生かす『青年赤十字奉仕団』があります。

令和3年度事業計画

地域に根差した活動を実施している地域赤十字奉仕団や、特殊な資格等を有し防災ボランティアの活動を推進している特殊奉仕団と、一体となった協力体制を構築し、有事の際の連携強化を図ります。

1 地域赤十字奉仕団

- 活動推進モデル事業の指定
 - 支援協力者増強推進
 - 赤十字思想普及
- 奉仕団リーダー・シップ研修会の開催（特殊・青年赤十字奉仕団と合同）
- 奉仕団基礎研修の開催（特殊・青年赤十字奉仕団と合同）
- 赤十字ボランティア・リーダー研修会への参加
- 県内で実施される防災訓練への参加
- 九州ブロック奉仕団委員長・担当課長会議の開催（福岡県）

2 特殊赤十字奉仕団

- 県内外で実施される災害救護訓練への参加
- 各種赤十字講習の実施
- イベント等における臨時救護の実施
- 青少年赤十字の推進
- 赤十字ボランティア・リーダー研修会への参加

3 青年赤十字奉仕団の活動推進

- 九州ブロック青年赤十字奉仕団協議会の開催
- 赤十字ボランティアリーダー研修会への参加

令和2年度事業報告

赤十字活動の先頭に立つ奉仕団員は、平時には、地域福祉の担い手としてニーズにあった活動を継続しており、災害時には地域の情報を持った防災ボランティアとして円滑な救援活動を支援しています。

1 奉仕団の結成状況

奉仕団名	回数(団)	男(人)	女(人)	計(人)
地域(市町村)	33	241	2,105	2,346
県アマチュア無線	1	778	95	873
県救急安全	1	112	111	223
県看護	1	3	37	40
県青少年赤十字賛助	1	33	4	37
県災害時救援	1	96	67	163
青年(※元学生赤十字奉仕団)	1	19	26	45
合計	39	1,282	2,445	3,727

2 地域奉仕団登録状況

令和3年3月31日現在

奉仕団名	結成年月日	委員長名	団員数(人)		
			男	女	計
宮崎市赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	山中 文子	23	148	171
宮崎市田野町赤十字奉仕団	昭和61年9月18日	矢野 和人	4	36	40
宮崎市佐土原町赤十字奉仕団	昭和52年1月25日	岡部 幸雄	2	27	29
宮崎市高岡町赤十字奉仕団	平成2年5月24日	海老原 明	7	13	20
宮崎市清武町赤十字奉仕団	昭和59年2月1日	桑本 エイ子	0	20	20
都城市赤十字奉仕団	昭和30年3月1日	山下 和代	8	124	132
延岡市赤十字奉仕団	昭和23年4月1日	西村 妙子	4	188	192
日南市赤十字奉仕団	昭和39年8月13日	迫畑 忠紀	9	40	49
日南市南郷町赤十字奉仕団	平成3年3月19日	竹井 みふ子	0	30	30
小林市赤十字奉仕団	昭和63年5月21日	倉田 玲子	29	102	131
日向市赤十字奉仕団	昭和52年4月24日	安倍 美佐子	9	82	91
串間市赤十字奉仕団	昭和43年5月21日	山本 節子	0	84	84
西都市赤十字奉仕団	昭和54年5月30日	佐々木 玄子	10	107	117
えびの市赤十字奉仕団	昭和49年5月2日	斉藤 克子	7	50	57
国富町赤十字奉仕団	昭和48年3月19日	後藤 ツヤ	21	98	119
綾町赤十字奉仕団	昭和53年8月26日	税所 カツ子	2	106	108
三股町赤十字奉仕団	平成8年9月27日	永井 祐二	34	6	40
高原町赤十字奉仕団	昭和37年4月25日	寺師 勝子	0	47	47
高鍋町赤十字奉仕団	昭和36年4月1日	守部 信秋	3	12	15
新富町赤十字奉仕団	昭和23年4月1日	壺岐 利美	9	39	48
西米良村赤十字奉仕団	昭和58年2月25日	小佐井 道子	0	135	135
木城町赤十字奉仕団	昭和59年10月15日	甲斐 恵子	0	89	89
川南町赤十字奉仕団	昭和30年10月24日	米田 マサ子	0	95	95
都農町赤十字奉仕団	昭和58年10月1日	小野 豊	5	7	12
門川町赤十字奉仕団	昭和53年8月29日	米良 公美子	3	78	81
美郷町南郷赤十字奉仕団	昭和54年11月17日	瀧下 慶子	2	27	29
美郷町西郷赤十字奉仕団	平成22年5月28日	阪本 進	11	20	31
美郷町北郷赤十字奉仕団	昭和53年8月3日	菊田 正光	10	58	68
諸塚村赤十字奉仕団	昭和55年7月5日	西田 正	19	30	49
椎葉村赤十字奉仕団	平成8年6月7日	那須 敬子	2	39	41
高千穂町赤十字奉仕団	昭和39年7月17日	甲斐 房子	7	131	138
日之影町赤十字奉仕団	昭和39年5月15日	平崎 キヌ子	0	18	18
五ヶ瀬町赤十字奉仕団	平成13年3月13日	飯干 和代	1	19	20
合 計		33団	241	2,105	2,346

3 特殊奉仕団登録状況

(1) 宮崎県アマチュア無線赤十字奉仕団	委員長	香川 征 治
	結成年月日	昭和44年1月18日
	団員数	873人
(2) 宮崎県救急安全赤十字奉仕団	委員長	奥 田 マサ子
	結成年月日	昭和45年2月10日
	団員数	223人
(3) 宮崎県看護赤十字奉仕団	委員長	三 山 千砂子
	結成年月日	平成4年1月24日
	団員数	40人
(4) 宮崎県青少年赤十字賛助奉仕団	委員長	後藤田 寛
	結成年月日	平成15年4月1日
	団員数	37人
(5) 宮崎県災害時救援赤十字奉仕団	委員長	深 田 勝 廣
	結成年月日	平成18年5月21日
	団員数	163人
(6) 宮崎県青年赤十字奉仕団 (MRCY：宮崎レッドクロスユース)	委員長	川 野 翔 大
	結成年月日	令和2年1月1日
	団員数	45人

4 委員会・研修会等の開催及び参加の状況

期 日	研修会・会議名	場 所	参加者(人)
4 月	活動推進モデル事業打合せ会議	各地区分区	27
12月3日	赤十字奉仕団中央委員会	Web開催	1
中止	赤十字奉仕団基礎研修会		—
中止	赤十字奉仕団リーダーシップ研修会		—
延期	九州ブロック奉仕団委員長・担当課長合同会議		—
2月24日	赤十字奉仕団宮崎県支部委員会	Web開催	46

5 活動推進モデル事業指定状況（2年間指定）

A 支援協力者増強推進モデル事業

活動内容：地域住民及び法人への活動資金募集、赤十字PR等。

B 赤十字思想普及モデル事業

活動内容：一般市民を対象とした赤十字思想普及、非常食づくりの実演、青少年赤十字加盟登録式への参加等。

	R2年度	R3年度	R4年度
A	宮崎市田野町赤十字奉仕団	宮崎市田野町赤十字奉仕団	—
	日南市赤十字奉仕団	—	—
B	高原町赤十字奉仕団	高原町赤十字奉仕団	—
	宮崎市清武町赤十字奉仕団	三股町赤十字奉仕団	三股町赤十字奉仕団

青少年赤十字 (Junior Red Cross)

青少年赤十字（JRC）は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、日常生活の中での実績活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会、国家・世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的にしています。

幼・保（こども園を含む）、小、中、高等学校に組織され、学校教育の中で3つの実践目標「健康・安全、奉仕、国際理解・親善」に向かって、「気づき、考え、実行する」の3つの態度目標のもと活動しています。

令和3年度事業計画

期 日		行 事 名	開 催 地	参 加 者 対 象 者	備 考
月	日				
4		JRC登録式（～7月）	県内加盟校・園	職員・賛助奉仕団・地域赤十字奉仕団	*主に動画配信による
5	22～23	JRCリーダーシップトレーニングセンター 指導者養成研修会	Web会議	JRC指導者	
6	8	宮崎県JRC指導者協議会総会	Web会議	役員・地区理事長 宮崎県市町村教育委員会連合会会長 宮崎県青少年赤十字賛助奉仕団委員長	
	29	全国JRC指導者協議会総会	Web会議	JRC指導者協議会会長	
7	(未定)	JRCメンバー研修会	日赤県支部	高校生メンバー JRC指導者 賛助奉仕団	
	(未定)	JRC指導者養成講習会	日赤県支部	JRC指導者	
	(未定)	JRCリーダーシップトレーニングセンター 企画準備会議	日赤県支部	スタッフ	
8	3～4	JRCリーダーシップトレーニングセンター	青島青少年自然の家	JRCメンバー、スタッフ	
	18～20	九州（第6）ブロック青少年赤十字 指導者養成講習会	沖縄県	JRC指導者	
9	30	JRC研究会	日赤本社（東京都）	県教育委員会指導主事	
	未定	JRCリーダーシップトレーニングセンター 反省会	日赤県支部	スタッフ	
11	未定	九州ブロックJRC指導者協議会 会長並びに支部担当者会議	沖縄県	JRC指導者協議会会長 支部担当者 1名	
12	(未定)	JRCメンバー研修会② NHK海外たすけあい街頭募金	日赤県支部	高校生メンバー JRC指導者 賛助奉仕団	
1	未定	JRCリーダーシップトレーニングセンター 反省会	日赤県支部	スタッフ	
3	22～26	JRCスタディーセンター	山梨山中湖村東照館	JRC高校生メンバー	

*すべての行事およびその日程は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止または延期等の対応となる可能性があること。

*JRC・・・青少年赤十字(Junior Red Cross) の略称

令和3年度宮崎県青少年赤十字指導者協議会役員・地区理事長名簿(敬称略)

役 職	氏 名 (所 属)	備 考
会 長	黒木 修志 (宮崎市立青島小学校)	
副会長 (幼・保)	國友 基子 (延岡市ゆりかごW E C学院)	
〃 (中学校)	結城敬一郎 (国富町立本庄中学校)	
〃 (高 校)	持永 一美 (宮崎県立宮崎海洋高等学校)	監事兼務
〃 (私 立)	川崎 基弘 (鵬翔高等学校)	

地 区	地区会長 (所属)	地区理事長 (所属)
宮 崎 地 区	黒木 修志 (宮崎市立青島小学校)	富迫裕紀子 (宮崎市立青島小学校)
南那珂地区	矢野根育代 (日南市立南郷小学校)	福島 一美 (日南市立南郷小学校)
北諸県地区	薮 成臣 (都城市立夏尾小学校)	—
西諸県地区	佐土原 誠 (小林市立須木中学校)	平田 千恵 (小林市立須木中学校)
児 湯 地 区	岩永 律子 (高鍋町立高鍋東小学校)	染矢なるみ (高鍋町立高鍋東小学校)
東白杵地区	國友 基子 (ゆりかごW E C学院)	國友 弾 (ゆりかごW E C学院)
西白杵地区	伊東 泰彦 (日之影町立日之影中学校)	亀井 章人 (日之影町立日之影中学校)

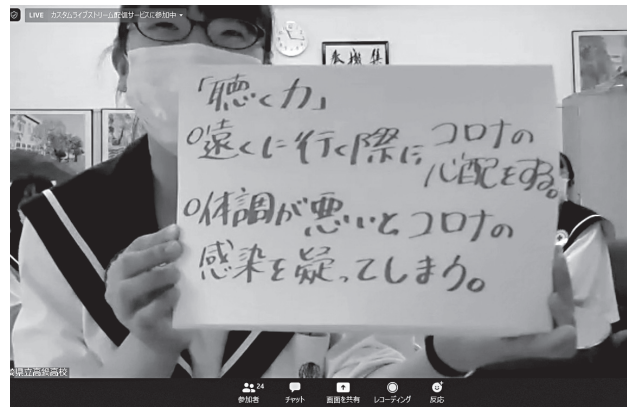
令和2年度事業報告

期 日	行事名	開催地	参加者	備考
4	JRC登録式 (~7月)	県内加盟校・園	職員・賛助奉仕団・地域赤十字奉仕団	*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により各校(園)それぞれで実施
5	JRCリーダーシップトレーニングセンター指導者養成講習会	国立オリンピック記念センター(東京都)	JRC指導者	*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
	JRCオンライン講座	Web会議	職員・高校生メンバー JRC指導者・全国支部	
7	JRC指導者養成講習会	日赤県支部	JRC指導者協議会会長	*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
	宮崎県JRC指導者協議会総会	文書審議	役員・地区理事長8名 宮崎県青少年赤十字賛助奉仕団委員長	*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により文書審議にて実施
	JRCリーダーシップトレーニングセンター企画準備会議	日赤県支部	JRC指導者 賛助奉仕団	*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
	JRC高校生連絡協議会①	日赤県支部	高校生メンバー JRC指導者 賛助奉仕団	*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
	宮崎県JRC指導者養成講習会	宮崎日赤会館	JRC指導者 賛助奉仕団	*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
8	JRCリーダーシップトレーニングセンター	青島青少年自然の家		*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
9	全国JRC指導者協議会総会	Web会議	JRC指導者協議会会長	*新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりWeb会議形式にて実施
10	JRC防災教育	串間市	職員 串間市内小学5年生 串間市教育委員会	
11	九州ブロックJRC指導者協議会会長並びに支部担当者会議	宮崎日赤会館	JRC指導者協議会会長 支部担当者	*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

期 日	行事名		開催地	参加者	備考
12	8	JRC 高校生連絡協議会② NHK 海外たすけあい街頭募金	日赤県支部	高校生メンバー JRC 指導者 賛助奉仕団	*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
1	8	JRC 研究会	Web 会議	県教育委員会指導主事 1名	*新型コロナウイルス感染症拡大の影響により Web 会議形式にて実施

○JRC オンライン講座～新型コロナウイルス感染症について学ぶ～

全国初となる「新型コロナウイルス感染症オンライン講座」を開催。日本赤十字社が作成した教材「新型コロナウイルス3つの顔を知ろう」を用いて実施。



○JRC 防災教育（串間市ふれあい体験学習）

串間市教育委員会主催の「串間市ふれあい体験学習」にて、串間市内小学5年生を対象にJRC防災教育教材を使用したワークショップを実施



青少年赤十字加盟状況

区 分	園・校数	メンバー数（人）		
		男 子	女 子	計
幼 稚 園 *	8	142	142	284
保 育 所（園）*	32	1,117	824	1,941
小 学 校	75	11,926	11,556	23,482
中 学 校	39	3,595	3,438	7,033
高 等 学 校	8	333	517	850
合 計	162	17,113	16,477	33,590

*認定こども園を含む

青少年赤十字加盟校一覧【地区別】

(令和3年3月31日現在)

宮崎地区 61	幼・保 17	くにとみ幼稚園	南那珂地区 20	高4	県立宮崎大宮高等学校	児湯地区 19	いずみ保育園*
		ひろせ幼稚園			県立宮崎海洋高等学校		西都市立妻北小学校
		江平保育園			県立宮崎北高等学校		西都市立妻南小学校
		ひなたほいくえん			★私立鵬翔高等学校		西都銀上学園(銀上小学校)
		みなみこども園		日南市立大堂津小学校	高鍋町立高鍋東小学校		
		フェニックスキッズ宮交シティ		日南市立飫肥小学校	高鍋町立高鍋西小学校		
		フェニックスキッズボンベルタ橋		★日南市立北郷小中学校(北郷小学校)	新富町立富田小学校		
		フェニックスキッズおおはし		日南市立南郷小学校	川南町立多賀小学校		
		フェニックスキッズつるのしま		日南市立榎原小学校	川南町立山本小学校		
		フェニックスキッズ宮崎駅東口		日南市立湯上小学校	川南町立川南小学校		
		国富東保育園		串間市立金谷小学校	中5		西都銀上学園(銀鏡中学校)
		国富こすもす保育園		串間市立福島小学校			西都市立穂北中学校
		三名保育園		串間市立都井小学校			川南町立国光原中学校
		ちどりこども園		串間市立北方小学校			木城町立木城中学校
		太田原にじ色こども園		串間市立有明小学校			西米良村立西米良中学校
		もりながこども園		日南市立細田中学校	高1		県立高鍋高等学校
		綾町立中坪保育所		★日南市立北郷小中学校(北郷中学校)	幼・保 15		東幼稚園
	宮崎市立宮崎小学校	日南市立南郷中学校	諸塚村立諸塚幼稚園				
	宮崎市立小戸小学校	日南市立榎原中学校	こすもす保育園				
	宮崎市立大淀小学校	日南市立油津中学校	わかたけ保育園				
	宮崎市立大宮小学校	日南市立飫肥中学校	ゆりかごWEC学院				
	宮崎市立古城小学校	日南市立東郷中学校	第二ゆりかごWEC学院				
	宮崎市立江平小学校	串間市立串間中学校	くまた保育園				
	宮崎市立西池小学校	★私立日南学園高等学校	認定こども園 こぼと保育園				
	宮崎市立潮見小学校	幼・保 2	相愛保育園				
	宮崎市立瓜生野小学校		相愛ひめぎ保育園				
	宮崎市立青島小学校	小10	都城市立大王小学校				
	宮崎市立内海小学校		都城市立西小学校				
	宮崎市立大塚小学校		都城市立今町小学校				
	宮崎市立池内小学校		都城市立祝吉小学校				
	宮崎市立宮崎西小学校		都城市立夏尾小学校				
	宮崎市立宮崎南小学校		都城市立明和小学校				
	宮崎市立江南小学校		都城市立山之口小学校				
	宮崎市立住吉南小学校		都城市立木之川内小学校				
	宮崎市立穂北小学校		都城市立西岳小学校				
	宮崎市立小松台小学校		三股町立勝岡小学校				
	宮崎市立広瀬北小学校	中7	都城市立姫城中学校				
	宮崎市立広瀬西小学校		都城市立祝吉中学校				
	宮崎市立穆佐小学校		都城市立庄内中学校				
	宮崎市立那珂小学校		都城市立中郷中学校				
	宮崎市立佐土原小学校		都城市立西中学校				
	宮崎市立大久保小学校		都城市立夏尾中学校				
	宮崎市立加納小学校		都城市立高崎中学校				
	宮崎市立倉岡小学校	高1	私立都城東高等学校				
	国富町立八代小学校	幼・保 2	遍照幼稚園				
	国富町立森永小学校		光明こども園				
	国富町立本庄小学校	小5	小林市立小林小学校				
	国富町立木脇小学校		えびの市立飯野小学校				
	宮崎市立大宮中学校		えびの市立上江小学校				
	宮崎市立住吉中学校		えびの市立岡元小学校				
	宮崎市立大塚中学校		高原町立広原小学校				
	宮崎市立東大宮中学校	中2	小林市立須木中学校				
	宮崎市立清武中学校		小林市立東方中学校				
	国富町立木脇中学校	高1	県立飯野高等学校				
	国富町立八代中学校	幼・保 4	あさひ幼稚園				
	綾町立綾中学校		西都カトリック幼稚園				
	★宮崎日本大学中学校		のぞみ保育園				
	小31	北諸県地区 20	宮崎市立西池小学校	東臼杵地区 28	幼・保 15	認定こども園 こぼと保育園	
			宮崎市立潮見小学校		みなみ保育園		
			宮崎市立瓜生野小学校		つのだ保育園		
			宮崎市立青島小学校		なるたき保育園		
宮崎市立内海小学校			南町保育園				
宮崎市立大塚小学校			いすず保育園				
宮崎市立池内小学校			日向こども園				
宮崎市立宮崎西小学校			日向南こども園				
宮崎市立宮崎南小学校			小8		延岡市立延岡小学校		
宮崎市立江南小学校					日向市立美々津小学校		
宮崎市立住吉南小学校					門川町立門川小学校		
宮崎市立穂北小学校					★美郷町立美郷北学園(北郷小学校)		
宮崎市立小松台小学校					諸塚村立荒谷小学校		
宮崎市立広瀬北小学校			椎葉村立椎葉小学校				
宮崎市立広瀬西小学校			椎葉村立松尾小学校				
宮崎市立穆佐小学校	椎葉村立大河内小学校						
宮崎市立那珂小学校	中5	延岡市立島野浦中学校					
宮崎市立佐土原小学校		門川町立門川中学校					
宮崎市立大久保小学校		美郷町立西郷中学校					
宮崎市立加納小学校		★美郷町立美郷北学園(北郷中学校)					
宮崎市立倉岡小学校		椎葉村立椎葉中学校					
国富町立八代小学校	小1	高千穂町立田原小学校					
国富町立森永小学校		高千穂町立上野中学校					
国富町立本庄小学校		日之影町立日之影中学校					
国富町立木脇小学校	中3	五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校					
宮崎市立大宮中学校							
宮崎市立住吉中学校							
宮崎市立大塚中学校							
宮崎市立東大宮中学校							
宮崎市立清武中学校							
国富町立木脇中学校							
国富町立八代中学校							
綾町立綾中学校							
★宮崎日本大学中学校							

★は一貫校

幼稚園・保育園(こども園を含む)	40
小学校	75
中学校	39
高等学校	8
合計	162

国 際 活 動

赤十字の活動は、傷病者の救護をはじめ、一般住民への災害時における人道的活動が基本であり、近年、国際的な支援・協力も重要な役割となっています。

今日の世界情勢を見ると、民族・宗教等の対立による武力紛争が生じており、多くの難民や避難民が発生しています。また、暴風雨、干ばつ、地震などの自然災害による被災者も多く人道的課題の解決は終わりを見ません。世界を取り巻く環境が刻一刻と変化する中、こうした人道問題に対する国民の理解と関心を高めることもまた、赤十字の重要な役割の一つなのです。

赤十字の国際活動は、赤十字国際委員会及び国際赤十字・赤新月社連盟の調整下、世界的なネットワークにより緊急救援から長期にわたる人道ニーズへの取り組みまで、多岐にわたり行われています。

日本赤十字社もこれらの活動に積極的に参加していますが、この活動には「NHK海外たすけあい」による募金や救援金が大きな財源となっています。

令和3年度事業計画

項 目	期 日
NHK海外たすけあい	12月1日～25日
海外救援金の募集	随時
安否調査	随時

令和2年度事業報告

1 研修会等の開催及び参加の状況

期 日	研修会・会議名	場 所	参加者
2/15～2/17	令和2年度国際人道法普及セミナー	Web会議	1名

2 海外救援金の募集

救援金名	件数(件)	金 額(円)
NHK海外たすけあい	134	961,457
バングラデシュ南部避難民救援金	4	2,375
合 計	138	963,832

広 報 活 動

救急法（AED 講習）や幼児安全法等の講習受講や、赤十字奉仕団に加入することによって、赤十字の行っている事業を理解いただくとともに、各種のイベントや新聞、ホームページ、テレビ、ラジオなどを通じて県民の皆様に「赤十字の活動が目に見える」事業や広報活動を行っています。

日本赤十字社の使命である「人道」（人間のいのちと健康、尊厳を守ること）を達成するための各種事業を通して、県民の皆様に「赤十字事業の見える化」を推進します。

令和3年度事業計画

1 「赤十字事業の見える化」の推進

- (1) 大型ビジョンによる広告
- (2) 「世界赤十字デー」レッドライトアップ運動2021の展開
- (3) 赤十字運動月間PRイベントの開催
- (4) 「世界救急の日」講習会等の開催
- (5) 日赤全国広報誌や民間広報媒体による情報発信の拡大
- (6) 新規ホームページによる情報発信の充実

2 広報資材

下記の広報活動を通じて赤十字活動への参加と「赤十字事業の見える化」を推進します。

事 項	内 容	数 量	備 考
大型ビジョン	宮崎市（宮崎駅 アミュひろば・一番街）	8,000回	放映回数
印刷物	全戸配布チラシ	188,000枚	
	ポスター（B2版）	600枚	地区分区等で掲示
	ポスター（B3版）	1,000枚	地区分区等で掲示
	赤十字リーフレット「赤十字の使命と活動」	10,000部	地区分区等で配付
	社員証シール（年度入り）	4,350枚	地区分区等で配付
	のぼり旗	50本	地区分区等で掲示

3 定期刊行物

赤十字活動を理解いただくために下記の印刷物を発行いたします。

印 刷 物	部 数	回 数
日赤県支部機関紙「赤十字みやざき」	13,200部	年3回
宮崎県の赤十字（事業概要）	250部	年1回

4 国際人道法普及啓発の推進

ジュネーブ条約と赤十字の使命について職員をはじめ、地区分区職員、奉仕団員等への研修を推進します。

令和2年度事業報告

1 広報資材

事 項	内 容	数 量	備 考
大型ビジョン	宮崎市（宮崎駅・一番街）	10,488回	
バナー	都城市（中央通り商店街）	60枚	
新聞広告	夕刊デイリー新聞社	40,000部	
印刷物	全戸配布チラシ	230,000枚	
	月間ポスター	1,600枚	B 2 版600枚 B 3 版1,000枚
	リーフレット	10,000枚	
社員証	社員証シール（年度入り）	4,400枚	

2 定期刊行物

赤十字活動を理解いただくために下記の印刷物を発行いたします。

印 刷 物	部 数	回 数
日赤県支部機関紙「赤十字みやざき」	12,900部	年 3 回
宮崎県の赤十字（事業概要）	400部	年 1 回

3 宮崎県支部以外による広報

① 日赤本社

- ・本社広報誌「赤十字NEWS」への掲載（2回）
- ・本社業務報告書「Annual Report 2019-2020」への掲載（JRC オンライン講座）
- ・秋篠宮家への御進講

② 外部メディア

- ・TV放送（2局2回）
- ・ラジオ放送（1局1回）
- ・新聞（4社4回）
- ・ネットニュース（4媒体4回）
- ・他団体情報誌（1団体1回）

表 I 令和3年度日本赤十字社宮崎県支部一般会計歳入歳出予算総括表

(歳入)

(単位：千円)

(歳出)

(単位：千円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	前年度対比
社 資 収 入	135,000	142,000	△ 7,000	95.1%
委 託 金 等 収 入	0	0	0	—
補助金及び交付金収入	8,063	11,873	△ 3,810	67.9%
繰 入 金 収 入	9,000	8,000	1,000	—
借 入 金 収 入	0	0	0	—
貸付金償還金収入	0	0	0	—
出資金償還金収入	0	0	0	—
資 産 収 入	10,794	10,745	49	100.5%
雑 収 入	3,240	5,820	△ 2,580	55.7%
前年度繰越金収入	4,916	2,153	2,763	228.3%
歳入合計	171,013	180,591	△ 9,578	94.7%

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	前年度対比
災害救護事業費	24,507	33,157	△ 8,650	73.9%
社会活動費	28,704	30,863	△ 2,159	93.0%
国際活動費	10	10	0	100.0%
指定事業地方振興費	2,000	2,000	0	100.0%
地区区分交付金	19,800	21,600	△ 1,800	91.7%
社 業 振 興 費	23,349	23,512	△ 163	99.3%
基盤整備交付金・補助金支出	50	0	50	—
貸付金支出	0	0	0	—
償還金支出	0	0	0	—
積立金支出	6,000	5,464	536	109.8%
出資金支出	0	0	0	—
総務管理費	33,921	36,955	△ 3,034	91.8%
資産取得及び資産管理費	11,772	5,780	5,992	203.7%
本社総納金支出	19,500	20,550	△ 1,050	94.9%
予 備 費	1,400	700	700	200.0%
歳出合計	171,013	180,591	△ 9,578	94.7%

表Ⅱ 令和2年度日本赤十字社宮崎県支部一般会計歳入歳出決算総括表

(歳入)

(歳出)

(単位：円)

科目	予算現額			決算額	増減
	当初予算額	補正予算額	計		
社資収入	142,000,000	0	142,000,000	130,208,229	△11,791,771
委託金等収入	0	0	0	0	0
補助金及び交付金収入	11,873,000	0	11,873,000	10,631,616	△1,241,384
繰入金収入	8,000,000	0	8,000,000	8,902,430	902,430
借入金収入	0	0	0	0	0
貸付金償還金収入	0	0	0	0	0
出資金償還金収入	0	0	0	0	0
資産収入	10,745,000	0	10,745,000	10,274,101	△470,899
雑収入	5,820,000	0	5,820,000	4,254,142	△1,565,858
前年度繰越金収入	2,153,000	0	2,153,000	7,174,080	5,021,080
歳入合計	180,591,000	0	180,591,000	171,444,598	△9,146,402

(単位：円)

科目	予算現額				決算額	不用額
	当初予算額	補正予算額	流用増減額	計		
災害救護事業費	33,157,000	0	0	33,157,000	32,418,910	738,090
社会活動費	30,863,000	0	0	30,863,000	25,430,817	5,432,183
国際活動費	10,000	0	0	10,000	3,729	6,271
指定事業地方振興費	2,000,000	0	0	2,000,000	2,000,000	0
地区区分交付金	21,600,000	0	0	21,600,000	18,499,415	3,100,585
社業振興費	23,512,000	0	0	23,512,000	19,905,144	3,606,856
基盤整備交付金・補助金支出	0	0	0	0	0	0
貸付金支出	0	0	0	0	0	0
償還金支出	0	0	0	0	0	0
積立金支出	5,464,000	790,000	0	6,254,000	6,189,024	64,976
出資金支出	0	0	0	0	0	0
総務管理費	36,955,000	△300,000	0	36,655,000	32,893,107	3,761,893
資産取得及び資産管理費	5,780,000	△490,000	0	5,290,000	3,136,551	2,153,449
本社総納金支出	20,550,000	0	0	20,550,000	18,781,234	1,768,766
予備費	700,000	0	0	700,000	0	700,000
歳出合計	180,591,000	0	0	180,591,000	159,257,931	21,333,069

歳入合計 歳出合計 翌年度繰越金

171,444,598円 - 159,257,931円 = 12,186,667円

表Ⅱ 令和3年度日本赤十字社宮崎県支部行事計画表

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総務関係	全国支部事務局局長会議 常任理事会	常任理事会	常任理事会 理事会 代議員会 ソフトウェア管理担当者研修会	常任理事会 事務局局長会議	全国支部課長会議 支部会計担当者会議	常任理事会	社業振興特別委員会 常任理事会	常任理事会 理事会	常任理事会	常任理事会	常任理事会	常任理事会 理事会 代議員会
	本社			本社								
組織振興関係	ブロック											
	本社						日赤紺綬・有功会会長協議会	九州八県赤字大会				
事業推進課関係	ブロック											
	本社	JRC担当者会議	奉仕団中央委員会	JRC全国指導者協議会総会 JRC TC指導者養成講習会	県有功会総会							
イベント等	ブロック		青年奉仕団協議会	事業担当課長会議 JRC指導者養成講習会				九州八県合同災害救護訓練 JRC会長・担当者合同会議		奉仕団委員長・事業担当課長合同会議		
	支部	モデル奉仕団打合せ会議		JRC指導者協議会総会	JRCリーダークラウドトレーニング/セミナー	非常通信訓練 野営訓練	奉仕団リーダークラウド研修会	九州国際看護大学推薦入試 みやざき愛の献血運動推進県民大会	JRC研修会		支部委員会	
		赤十字運動月間		愛の血液たすけあい運動月間		世界救急の日			NHK 海外たすけあい	はたちの献血キャンペーン	はたちの献血キャンペーン	

表IV 令和2年度日本赤十字社宮崎県支部行事一覧（上半期）

月	本 社	第6ブロック	支 部	そ の 他
4 月	全国支部事務局局長会議（Web・録画）	九州八県支部合同災害救護訓練第1回運営委員会（Web 28日）	地区区分区事務員研修会（書面伝達）	
	全国支部事務局局長総会（文書審議）			
5 月			赤十字運動月間（5月1日～5月30日）	
6 月	理事会・代議員会（文書審議）		監査委員監査（個別訪問 17日～19日）	
	臨時：全国支部事務局局長会議（Web 29日）			
7 月		災害派遣（熊本県：7月豪雨災害） ・医療救護班 1班、支部支援要員 2名	令和2年度 第1回評議員会（文書審議） 矢野産業 高額社資贈呈式（20日）	宮崎県日赤有功会役員会（15日）
8 月	幼児安全法講師研究会（Web 3日）			
	JRCオンラインミーティング（Web 24日）			
9 月	幹部職員養成研修（Web 2日～4日）			
	JRC全国指導者協議会総会・研修会（Web 11日）			
	社業振興特別委員会（Web 24日）			
	防災教育事業主任指導者研修（Web 25日） ファンドレイジングセミナー2020（Web 28日）			

表IV 令和2年度日本赤十字社宮崎県支部行事一覧（下半期）

月	本 社	第6ブロック	支 部	そ の 他
10月	JRC国際交流事業にかかるミーティング (Web 8日)	第6B支部事務局長会議 (Web 15日)		令和2年度献血運動推進協力団体等表彰式 (6日)
	中幹部職員養成研修会 (Web 21日～23日)	九州八県支部合同災害救護訓練第2回運営委員会 (Web 2日)		申間市の防災セミナー (15日)
11月	臨時：全国支部事務局長会議 (Web 5日)	第6B JRCミーティング (Web 4日)		第45回宮崎県日赤有功会表彰伝達式 (22日)
	JRC国際交流事業 (Web 15日)			県民一斉防災行動訓練「みやざきシェイクアウト」(5日)
12月	赤十字奉仕団中央委員会 (Web 3日)		NHK海外たすけあい街頭キャンペーン (1日)	「津波防災の日」フォーラム (Web 5日)
1月	青少年赤十字研究会 (Web 8日)		宮崎県支部災害対策本部設置訓練 (30日)	九州緊急災害現地对策本部運営訓練 (Web 23日)
	赤十字防災ボランティア・リーダー養成研修会 (Web 16日)			宮崎産業経営大学ボランティア講座 (Web 22日)
	地域包括ケア事業Web勉強会 (Web 26日～28日)			
	赤十字講習担当者研修会 (Web 29日)			
2月	赤十字ボランティア養成研修ガイドブック勉強会 (Web 5日・19日)		令和2年度 第2回評議員会 (文書審議)	
	国際人道法普及セミナー (Web 15日～17日)		地区分区事務委員会 (Web 15日)	
			赤十字奉仕団宮崎県支部委員会 (Web 24日)	
3月	理事会・代議員会 (Web 18日)	第6B JRCミーティング (Web 19日)	宮崎県支部災害対策本部設置訓練 (16日)	宮崎県防災会議 (23日)
	幼児安全法講師研究会 (Web 18日)	九州八県支部合同災害救護訓練第3回運営委員会 (Web 18日)		日南市地区 理事会 (24日)

参考資料

赤十字のあらましと現況

赤十字のはじまりと国際赤十字の現況

日本赤十字社の創立と現況

日本赤十字社宮崎県支部の沿革と現況

赤十字基本原則

(1965年ウィーンで開催された第20回赤十字国際会議議決)

人道 (Humanity)

国際赤十字・赤新月運動（以下「赤十字・赤新月」という。）は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的及び国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字・赤新月はすべての国民間の相互理解、友情、協力及び堅固な平和を助長する。

公平 (Impartiality)

赤十字・赤新月は、国籍、人種、宗教、社会的地位又は政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字・赤新月はただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合、最も急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

中立 (Neutrality)

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字・赤新月は、戦闘行為の時にいずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教的又は思想的性格の紛争には参加しない。

独立 (Independence)

赤十字・赤新月は独立である。各国赤十字社・赤新月社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律にしたがうが、つねに赤十字・赤新月の諸原則にしたがって行動できるようにその自主性を保たなければならない。

奉仕 (Voluntary Service)

赤十字・赤新月は、利益を求めない奉仕的救護組織である。

単一 (Unity)

いかなる国にもただ一つの赤十字社・赤新月社しかあり得ない。赤十字社・赤新月社は、すべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければならない。

世界性 (Universality)

赤十字・赤新月は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字社・赤新月社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。

赤十字のはじまりと国際赤十字の現況

1 赤十字の創立者：アンリー・デュナン

赤十字の創設を最初に唱えた人は、スイスのアンリー・デュナンです。

彼は1859年6月24日、31才の時、北イタリアのソルフェリーノを通りかかった時に、その地方を中心にくりひろげられていたイタリア統一戦争（仏・伊連合軍とオーストリアの戦い）の激戦に遭遇しました。デュナンは、余りにも悲惨なありさまを目撃し、深く心を打たれ、敵味方の差別なく苦痛にあえぐ傷病兵の救護にあたりました。

ジュネーブに帰ったデュナンは、戦争の犠牲者の悲惨なありさまを「ソルフェリーノの思い出」という本に書いて、全世界の人々に人道を精神とした国際的な救護団体の創設を訴えました。

1863年2月17日、デュナンの提唱した問題を研究するための「5人委員会」が発足し、1863年10月にはヨーロッパ16カ国が参加して最初の国際会議が開かれ、赤十字規約ができました。そして、翌1864年8月にはスイス他15カ国の外交会議で最初のジュネーブ条約が調印され、ここに国際赤十字組織が正式に誕生しました。

その後、人道・博愛の精神を根底にした赤十字は、各国に受け入れられ、2016年1月現在、世界190カ国に設立されており、日本赤十字社はその中の一つです。


2 組織

国際赤十字とは、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国赤十字社の三つを総称したもので、その最高機関はこれらの三つをあわせて4年に1回開かれる赤十字国際会議です。

この会議では、赤十字の諸原則や諸事業が決定されて、各国の赤十字はこれに従って活動します。

なお、この会議には各国政府の代表も参加することになっています。

国際赤十字

<p>各国赤十字社</p>  <p>① 一国一社(189カ国) ② 政府の承認 ③ 赤十字国際委員会の承認 ④ ジュネーブ条約に加盟していること</p>	<p>赤十字国際委員会</p> <p>① スイス人のみ25人以内で構成 ② ジュネーブ諸条約の普及 ③ 創設する赤十字社の承認 ④ 捕虜・分散家族の国際安否調査 ⑤ 赤十字基本原則の維持 ⑥ 戦争・内乱による犠牲者の保護</p>	<p>赤十字国際会議</p> <p>① 赤十字の最高議決機関 ② 4年に1回の開催</p>	<p>国際赤十字・赤新月社連盟</p> <p>① 各国赤十字社の連合体 ② 総会は2年に1回 ③ 各国赤十字社の人道的活動の推進、連絡、調整</p>
<p>ジュネーブ条約加盟国</p> <p>① 194カ国 ② 「戦争犠牲者の保護に関する1949年8月12日のジュネーブ諸条約」と呼ばれ4つの条約からなっている。</p>			

各国赤十字社・赤新月社等一覧

(令和2年4月1日現在)

国際 委員会 承認順	国 名	国際 委員会 承認年	マーク	国際 委員会 承認順	国 名	国際 委員会 承認年	マーク	国際 委員会 承認順	国 名	国際 委員会 承認年	マーク	国際 委員会 承認順	国 名	国際 委員会 承認年	マーク
1	ベルギー	1864	+	49	エルサルバドル	1925	+	97	タンザニア	1963	+	145	チャド	1988	+
2	イタリア	1864	+	50	カナダ	1927	+	98	トリニダード・トバゴ	1963	+	146	モザンビーク	1988	+
3	スウェーデン	1865	+	51	ドミニカ共和国	1927	+	99	ブルンジ	1963	+	147	ドミニカ国	1989	+
4	ノルウェー	1865	+	52	オーストラリア	1927	+	100	ベナン	1963	+	148	セントビンセント及び グレナディーン諸島	1989	+
5	スイス	1866	+	53	インド	1929	+	101	マダガスカル	1963	+	149	ソロモン諸島	1991	+
6	オーストリア	1867	+	54	ニュージーランド	1932	+	102	ネパール	1964	+	150	セーシェル	1992	+
7	トルコ	1868	☾	55	イラク	1934	☾	103	ジャマイカ	1964	+	151	セントクリストファー・ネイビス	1992	+
8	オランダ	1868	+	56	ニカラグア	1934	+	104	ウガンダ	1965	+	152	アンティグア・バーブダ	1992	+
9	英国	1870	+	57	ハイチ	1935	+	105	ニジェール	1965	+	153	ナミビア	1993	+
10	デンマーク	1876	+	58	エチオピア	1935	+	106	ケニア	1966	+	154	スロバキア	1993	+
11	ルーマニア	1876	+	59	ホンジュラス	1938	+	107	ザンビア	1966	+	155	チェコ	1993	+
12	ギリシャ	1877	+	60	ミャンマー	1939	+	108	マリ	1967	+	156	スロベニア	1993	+
13	ペルー	1880	+	61	アイルランド	1939	+	109	クウェート	1968	☾	157	クロアチア	1993	+
14	アルゼンチン	1882	+	62	リヒテンシュタイン	1945	+	110	ガイアナ	1968	+	158	セルビア	1993	+
15	ハンガリー	1882	+	63	シリア	1946	☾	111	ソマリア	1969	☾	159	ウクライナ	1993	+
16	米 国	1882	+	64	レバノン	1947	+	112	ボツワナ	1970	+	160	バヌアツ	1993	+
17	ブルガリア	1885	+	65	フィリピン	1947	+	113	マラウイ	1970	+	161	マルタ	1993	+
18	ポルトガル	1887	+	66	モナコ	1948	+	114	レソト	1971	+	162	アンドラ	1994	+
19	日 本	1887	+	67	パキスタン	1948	☾	115	バーレーン	1972	☾	163	赤道ギニア	1994	+
20	スペイン	1893	+	68	ヨルダン	1948	☾	116	モーリタニア	1973	☾	164	トルクメニスタン	1995	☾
21	ベネズエラ	1896	+	69	インドネシア	1950	+	117	シンガポール	1973	+	165	ウズベキスタン	1995	☾
22	ウルグアイ	1900	+	70	サンマリノ	1950	+	118	バングラデシュ	1973	☾	166	アルメニア	1995	+
23	南アフリカ	1900	+	71	スリランカ	1952	+	119	フィジー	1973	+	167	アゼルバイジャン	1995	☾
24	フランス	1907	+	72	ドイツ	1952	+	120	中央アフリカ	1973	+	168	ベラルーシ	1995	+
25	チリ	1909	+	73	アフガニスタン	1954	☾	121	ガンビア	1974	+	169	マダガスカル	1995	+
26	キューバ	1909	+	74	大韓民国	1955	+	122	コンゴ共和国	1976	+	170	ブルネイ	1996	☾
27	メキシコ	1912	+	75	朝鮮民主主義人民共和国	1956	+	123	バハマ	1976	+	171	キルギスタン	1997	☾
28	中 国	1912	+	76	ラオス	1957	+	124	パプアニューギニア	1977	+	172	キリバス	1997	+
29	ブラジル	1912	+	77	チュニジア	1957	☾	125	モーリシャス	1977	+	173	パラオ	1997	+
30	ルクセンブルク	1914	+	78	スーダン	1957	☾	126	スワジランド	1979	+	174	タジキスタン	1997	☾
31	ポーランド	1919	+	79	ベトナム	1957	+	127	トンガ	1981	+	175	ジョージア	1997	+
32	フィンランド	1920	+	80	モロッコ	1958	☾	128	カタール	1981	☾	176	ガボン	1999	+
33	タイ	1920	+	81	リビア	1958	☾	129	イエメン	1982	☾	177	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2001	+
34	ロシア	1921	+	82	ガーナ	1959	+	130	ルワンダ	1982	+	178	モルドバ	2001	+
35	コスタリカ	1922	+	83	リベリア	1959	+	131	ジンバブエ	1983	+	179	クック諸島	2002	+
36	コロンビア	1922	+	84	モンゴル	1959	+	132	ベリーズ	1984	+	180	カザフスタン	2003	☾
37	パラグアイ	1922	+	85	カンボジア	1960	+	133	サモア	1984	+	181	マイクロネシア	2003	+
38	エストニア	1922	+	86	ナイジェリア	1961	+	134	バルバドス	1984	+	182	コモロ	2005	☾
39	ボリビア	1923	+	87	トゴ	1961	+	135	カーボベルデ	1985	+	183	東ティモール	2005	+
40	ラトビア	1923	+	88	シエラレオネ	1962	+	136	サントメ・プリンシペ	1985	+	184	イスラエル	2006	◆
41	エクアドル	1923	+	89	ブルキナファソ	1962	+	137	ギニアビサウ	1986	+	185	パレスチナ	2006	+
42	アルバニア	1923	+	90	コンゴ民主共和国	1963	+	138	アラブ首長国連邦	1986	☾	186	モンテネグロ	2006	+
43	グアテマラ	1923	+	91	マレーシア	1963	☾	139	セントルシア	1986	+	187	モルディブ	2011	☾
44	リトアニア	1923	+	92	アルジェリア	1963	☾	140	ギニア	1986	+	188	キプロス	2012	+
45	エジプト	1924	☾	93	カメルーン	1963	+	141	アンゴラ	1986	+	189	南スーダン	2013	+
46	パナマ	1924	+	94	コートジボワール	1963	+	142	スリナム	1986	+	190	ツバル	2015	+
47	イラン	1924	☾	95	サウジアラビア	1963	☾	143	ジブチ	1986	☾	191	マーシャル諸島	2017	+
48	アイスランド	1925	+	96	セネガル	1963	+	144	グレナダ	1987	+	192	ブータン	2019	+

+ は赤十字社(157社) ☾ は赤新月社(34社) ◆ はイスラエル・ダビデの赤盾社
 ※ 標章としての赤新月の向きについては、特に定めはない。それぞれの社が設立時に右向き又は左向きを定める。

日本赤十字社の創立と現況

1 日本赤十字社の創立

日本赤十字社は、明治10年（1877年）5月1日に創立されました。これを主唱したのは佐野常民という人で、彼は慶応3年（1867年）と明治6年（1873年）の2回、ヨーロッパを旅行して各国に赤十字という組織があることを知りました。

明治10年（1877年）、西南の役が起こったとき、佐野常民は元老院議員でしたが、同じ元老院議員の大給恒と語り合い、ヨーロッパ各国にある赤十字と同じような組織をつくり、西南の役における両軍の傷病者を救護しようと計画しました。そして、それを博愛社と名付け、政府に願書を提出したのです。

その願書に記された、「敵も味方も区別なく助ける」という趣旨は、当時の人々にもなかなか受け入れられませんでした。

そこで佐野常民は願書を持って熊本に赴き、ときの征討総督有栖川宮熾仁親王に直接許可を願い出しました。明治10年（1877年）5月1日のことです。5月3日に至り、有栖川宮熾仁親王は、博愛社の創設をお認めになりました。

これが後の日本赤十字社で、日本赤十字社では、佐野常民が有栖川宮熾仁親王に博愛社創設の願書を提出した、明治10年5月1日を創立日と定めています。そのときの博愛社の記章は、白地に赤十字ではなく、日の丸の下に赤で横に一本線を引いたものでした。

西南の役における博愛社の活動は、世の人々を驚かせました。敵の傷病者まで助けるということがどうしても理解できなかったのでしょう。

西南の役が終わると、佐野常民らは、わが国も世界の赤十字社に仲間入りすることを希望し、とりあえず江戸時代の蘭学者シーボルトの長男であるシーボルト男爵の援助を得て、政府にジュネーブ条約に加盟するよう働きかけました。こうして日本政府は明治19年（1886年）6月5日、ジュネーブ条約に加盟、11月15日に公布して、ジュネーブ条約に加わることになったのです。

日本政府がジュネーブ条約に加盟したので、博愛社も明治20年（1887年）5月20日、日本赤十字社と改めました。そして世界の赤十字の仲間に入るために赤十字国際委員会に申請し、9月2日に承認されたのです。

2 博愛社と宮崎県

博愛社は、西南戦争中最も広く長い間戦場となった本県でも、救護活動を活発に行っています。

博愛社の救護班を県内各地に派遣して、日向市細島に滞留していた佐野常民議員に、博愛社の初代総裁を、東伏見宮嘉彰親王がご承諾になったという電報が、明治10年9月15日、熊本から発信されています。

「博愛社総裁の議、東伏見宮ご承諾に相成りたり。委細は郵便にて直ちにご回答のはず。宮は当時鹿児島にあり。」の電報によって、博愛社は総裁に東伏見宮をいただき、ゆるぎない体制ができあがったのです。

このように、本県は日本赤十字社（博愛社）創立に関するいきさつの面でも歴史的なつながりを持っています。

3 日本赤十字社のしくみ

日本赤十字社は、日本赤十字社法に基づいて設置された認可法人です。

日本赤十字社法には「日本赤十字社は、法人とする。日本赤十字社は、社員を持って組織する。」と定めており、日本赤十字社が赤十字の目的や事業を理解し、毎年一定のお金を出して赤十字を支えてくれる人（これを『社員』といい、定款上では『会員』と呼称しています。）によって組織されていることを明らかにしています。そして、会員の中から代議員が選ばれ、代議員会において社長、副社長、理事及び監事が選出されます。

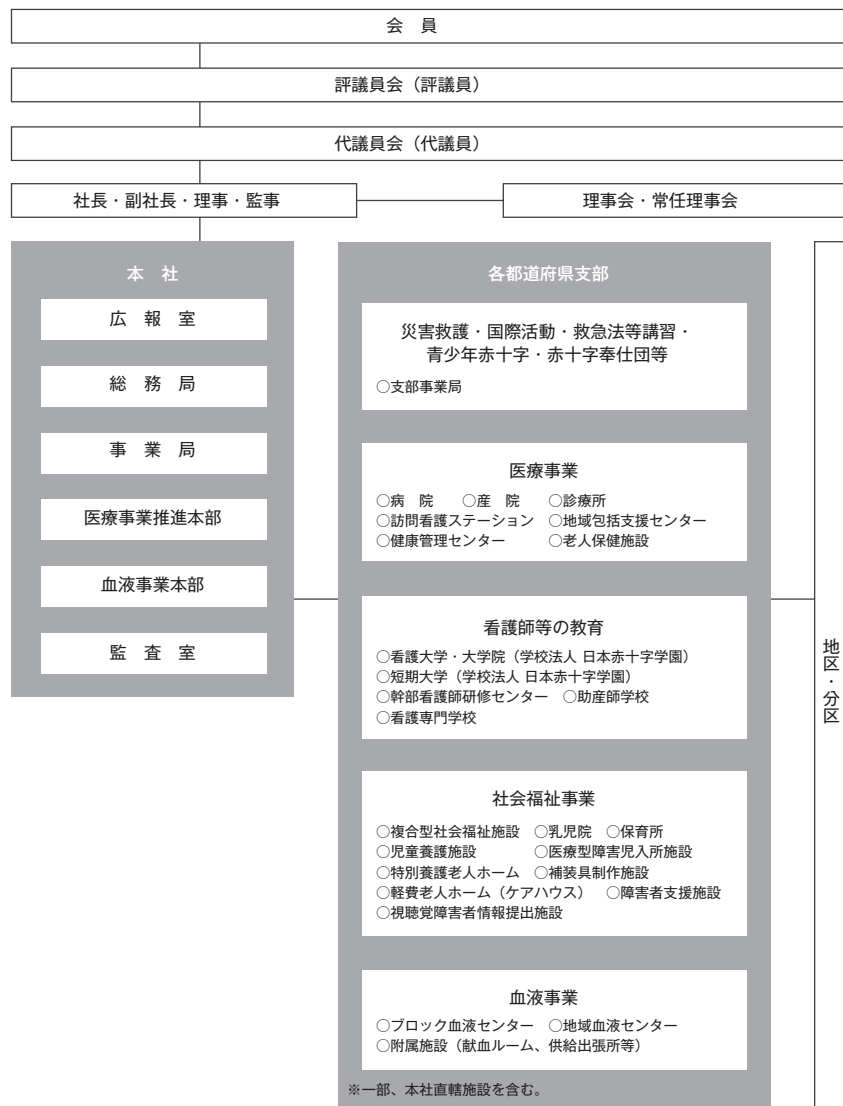
代議員会は毎年2回開かれ、予算や事業計画を承認したり、本社の最高方針を決定します。

また、日本赤十字社は東京に本社を置き、各都道府県庁の所在地に支部を置き、支部の下に地区・分区を置いています。

地区は、東京及び政令指定の特別市の区、一般の市、郡などに置かれ、分区は郡などの町村に置かれています。

また、日本赤十字社には、赤十字病院をはじめ、血液センター、看護師を養成する看護大学、看護専門学校、乳児院等の社会福祉施設などがあり、これらは一部の本社直轄のものを除いて、それぞれの支部に所属して事業をすすめています。

4 日本赤十字社の機構図



日本赤十字社の現勢

(特に断りのない統計数字等は、令和2年4月1日現在)

1 沿革

明治10年(1877)5月1日 博愛社設立
 明治20年(1877)5月20日 日本赤十字社に改称
 昭和27年(1952)8月14日 日本赤十字社法制定

2 名誉総裁・名誉副総裁

名誉総裁 皇后陛下
 名誉副総裁 秋篠宮皇嗣妃殿下
 常陸宮殿下・同妃殿下
 三笠宮妃殿下 寛仁親王妃信子殿下
 高円宮妃殿下

3 会員(令和2年3月31日現在)

個人 15.6万人
 法人 8.2万法人

4 評議員 2,007人

5 代議員 223人

6 役員

社長 大塚 義治(常勤)
 副社長 富田 博樹(常勤) 中西 宏明(非常勤)
 理事 61人(常勤1人、非常勤60人)
 監事 3人(非常勤)

7 青少年赤十字(令和2年3月31日現在)

幼稚園・保育所	1,741校	150,191人
小学校	7,184校	2,008,587人
中学校	3,622校	1,002,699人
高等学校	1,932校	330,291人
特別支援学校	201校	20,093人
計	14,680校	3,511,861人
指導者		241,534人

8 赤十字ボランティア(令和2年3月31日現在)

地域赤十字奉仕団	2,124団	1,150,227人
青年赤十字奉仕団	157団	6,327人
特殊赤十字奉仕団	634団	31,947人
個人ボランティア	-	3,719人
計	2,927団	1,192,220人

9 救急法等の講習

	登録者数(令和2年3月31日現在)		受講者数 (令和元年度)
	指導者	資格者	
救急法基礎講習	11,156人	213,656人	41,512人
救急法	7,024人	126,022人	445,108人
水上安全法	1,540人	10,148人	67,408人
雪上安全法	233人	1,001人	367人
幼児安全法	2,359人	19,339人	75,104人
健康生活支援講習	1,750人	13,644人	76,875人
計	24,062人	383,810人	706,374人

10 看護師等の教育

施設数	
大学(大学院併設)	6
短期大学	1
看護専門学校	14
助産師学校	1
幹部看護師研修センター	1
計	23

※ 一学年養成定員

看護師	20校	1,315人
助産師	6校	88人
保健師	6校	149人
幹部看護師	1校	120人
介護福祉士	1校	30人

11 国際活動

国際救助・開発要員派遣(令和元年度)	12ヶ国 のべ46人
国際赤十字・赤新月社連盟出向	2人(スイス, マレーシア)
国際援助額(令和元年度)	23億円
国際援助額(平成30年度)	25億円

12 国内災害救護

常備救護班(令和2年3月31日現在)	486班 4,328人
無線局(令和2年3月31日現在)	3,226局
救護車両(令和2年3月31日現在)	1,857台
赤十字飛行隊(令和2年3月31日現在)	100機
災害における救護員出動数(令和元年度)	11件 1,684人
取扱義援金額(令和2年3月31日現在)	11件 1,344人
①令和元年度受付義援金(東日本大震災を除く)	
②東日本大震災における令和元年度受付義援金	121億1,678万6,320円
配分救援物資(毛布・安眠セット・緊急セット)	8億3,985万2,794円
配分救援物資(毛布・緊急セット)	47,750個

13 医療事業

施設数	
病院 91	診療所 5 介護医療院・老人保健施設 7
病床総計 35,651床(令和2年3月31日現在)	
総患者数(令和元年度) 1日平均	
入院 1,071万人	2.9万人
外来 1,668万人	6.8万人

14 血液事業

施設数	
地域血液センター 47 (分置施設 5) 附属施設 172 (献血ルーム118を含む)	ブロック血液センター 7
献血者数(令和元年度)	供給本数(令和元年度)
成分献血 153万人	輸血用製剤 1,748万本
400mL献血 326万人	車両台数(令和2年3月31日現在)
200mL献血 14万人	献血運搬車 774台
計 493万人	移動採血車 289台

15 社会福祉施設

児童福祉施設数(定員)	
乳児院 8(291)	児童養護施設 1(40)
保育所 3(358)	医療型障害児入所施設 3(286)
老人福祉施設数(定員)	
特別養護老人ホーム(併設ケアハウス20人を含む) 8(773)	
障害者福祉施設数(定員)	複合型施設 1(定員)
障害者支援施設 1(50)	特別養護老人ホーム(110)
視覚障害者情報提供施設 2	介護老人保健施設(100)
補装具製作施設 1	高齢者グループホーム(8)
	障害者支援施設(0)

16 施設及び職員

	施設数	職員数
本社	1	546人
支部	47	721人
医療事業	118	59,364人
血液事業施設	231	5,894人
社会福祉施設	28	1,154人
計	425	67,679人

17 会計(令和2年度当初予算)

一般会計	本社	113億3千万円
	支部	186億5千万円
医療施設特別会計		1兆1,311億6千万円
血液事業特別会計		1,607億1千万円
社会福祉施設特別会計		153億7千万円

日本赤十字社宮崎県支部の沿革と現況

1 沿革

日本赤十字社宮崎県支部は、明治22年9月26日、日本赤十字社宮崎委員部として設置され、初代支部長（当時委員総長と称す）に岩山敬義知事が就任し、事務所を県庁内に置きました。

明治29年7月1日、日本赤十字社宮崎支部と改称、明治33年3月31日、宮崎町大字上別府牛円（現在の宮崎市橋通3丁目付近）に1階を事務所、2階を救護員養成所とした支部の完成をみました。

しかしながら財政的理由により、昭和5年9月、再び県庁内に事務所を移し、上記支部建物（木造2階建、延140坪）と敷地（354坪）を昭和7年5月売却し、支部資金としました。

次いで昭和16年3月14日、現在地（当時宮崎市栄3-29）にキリスト教会の土地建物を買取り、事務所を移転して今日に至っています。

この間、敷地内に昭和30年8月5日、診療所を開設しましたが、経営困難により、昭和35年7月これを廃止し、以後診療所跡を支部事務所に専用しました。

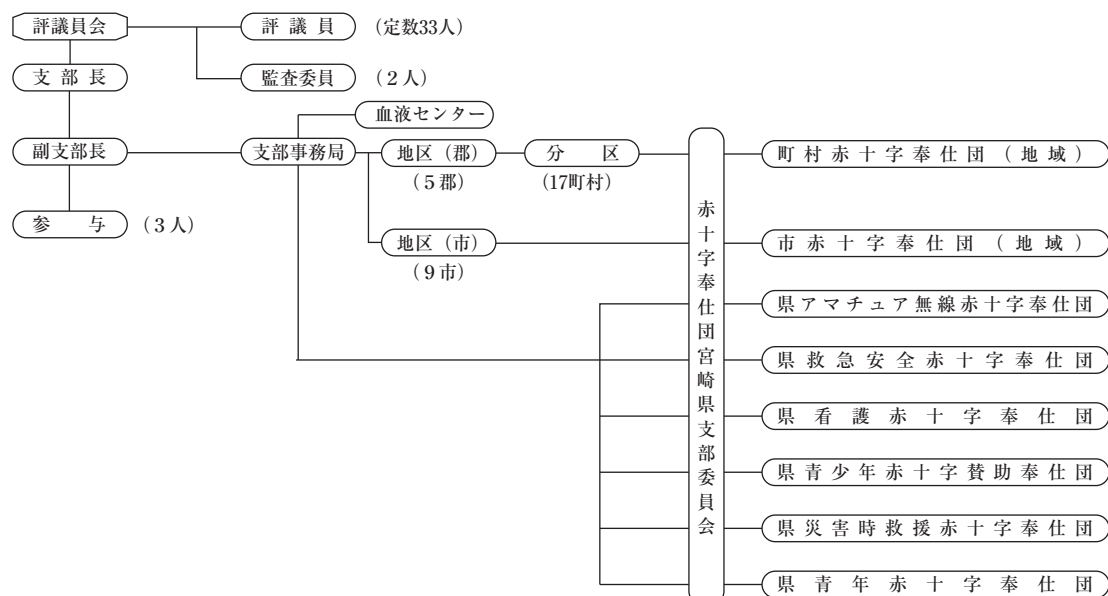
更に昭和36年3月には災害救助物資倉庫、昭和41年3月19日、血液センターを同一敷地内に新築しましたが、血液事業の伸展にともない、日赤創立100周年記念事業として、昭和53年度に血液センターの全面改装を支部事務所を解体してその跡地に行い、昭和54年4月以降、支部は血液センターを改装して事務所としました。

従来の災害救助物資保管倉庫が老朽化したため、昭和58年2月2日全面改装を行い、1階を車庫、2階、3階を倉庫として災害救助物資の備蓄態勢の整備を図りました。

平成元年が支部創設100周年にあたるため、記念事業として昭和63年11月初日、本県支部庁舎を改築（災害救助物資保管倉庫に併設増築）し、4階建とするとともに、旧支部庁舎を解体し、その跡地に駐車場の整備を図りました。

平成6年5月には血液センターが狭障となったため、宮崎市恒久の県有地に新築移転しました。また、旧血液センターの建物は4階を講習室・赤十字ボランティア活動センターとして活用する他、1階から3階を県関連機関にテナントとして有償で貸与しています。

2 機構



3 支部役職員

○ 役職員

役職名	氏名
支 部 長	河 野 俊 嗣
副 支 部 長	日 隈 俊 郎
本 社 理 事	田 代 知 代
代 議 員	田 代 知 代
〃	夏 田 康 則
〃	岸 上 照 夫
監 査 委 員	鳥 山 浩
〃	永 田 優
〃	吉 田 敏 春
参 与	吉 村 久 人
〃	重 黒 木 清
〃	黒 木 淳一郎

○ 赤十字関係団体代表者

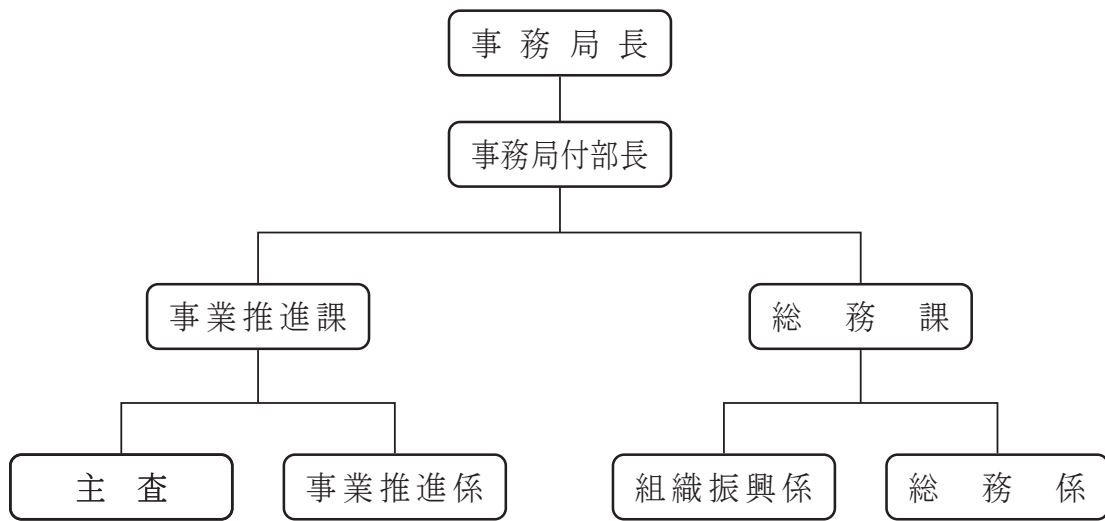
役職名	氏名
宮崎県日赤有功会 会長	鳥 山 浩
赤十字奉仕団 宮崎県支部委員長	後 藤 ツ ヤ
宮崎県アマチュア 無線赤十字奉仕団 委員長	香 川 征 治
宮崎県救急安全 赤十字奉仕団 委員長	奥 田 マサ子
宮崎県看護 赤十字奉仕団 委員長	三 山 千砂子
宮崎県青少年 赤十字賛助奉仕団 委員長	後 藤 田 寛
宮崎県災害時救援 赤十字奉仕団 委員長	深 田 勝 廣
宮崎県青少年赤十字 指導者協議会 会長	黒 木 修 志
日本赤十字社看護師 同方会宮崎県支部 支 部 長	重 永 康 子
宮崎県青年 赤十字奉仕団 委員長	川 野 翔 大

○ 評議員

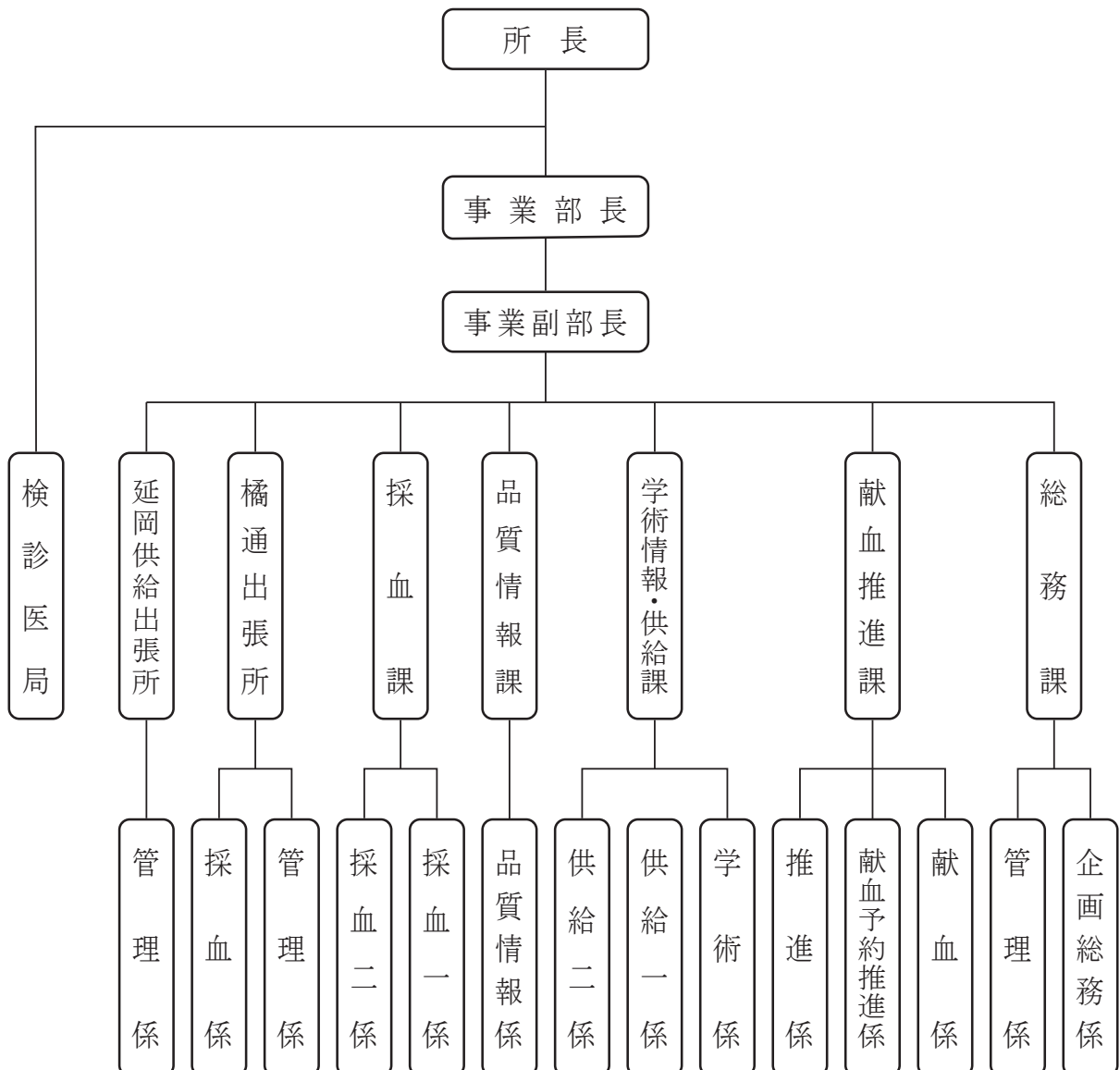
選出別	氏名
宮崎市地区	鳥 山 浩
〃	矢 野 久 也
〃	山 中 文 子
〃	芝 崎 敏 之
〃	黒 木 修 志
〃	時 任 孝 俊
〃	長 田 一 郎
〃	福 元 直 昭
都城市地区	夏 田 康 則
〃	柿木原 康 雄
〃	米 吉 春 美
〃	山 下 和 代
延岡市地区	岸 上 照 夫
〃	吉 田 敏 春
〃	山 口 トヨ子
日南市地区	川 添 昭 男
小林市地区	倉 田 富 夫
日向市地区	佐 藤 寛
串間市地区	川 崎 広 海
西都市地区	佐々木 玄 子
えびの市地区	益 山 憲 一
中部地区	佐々木 保
北西諸県地区	永 井 祐 二
児湯地区	河 野 正 和
〃	甲 斐 恵 子
東臼杵地区	植 田 恒 夫
西臼杵地区	花 田 則 男
支部長選出	田 代 知 代
〃	黒 木 定 藏
〃	河 野 雅 行
〃	河 野 誠 司
〃	米 良 充 典
〃	鳥 津 久 友

4 支部・センターの組織図

◎ 日本赤十字社宮崎県支部



◎ 宮崎県赤十字血液センター



5 施設の概要

(1) 日本赤十字社宮崎県支部

- ① 所在地 宮崎市別府町3番1号
- ② 敷地面積 2,030㎡（宮崎日赤会館敷地を含む）
- ③ 事務局建物 4階建（681.5㎡）
 - 1階 玄関ホール
 - 2階 事務室
 - 3階 小会議室・ボランティア室・書庫・薬品庫
 - 4階 大会議室
- ④ 災害救助物資倉庫及び車庫 3階建（倉庫484㎡・車庫296.7㎡）
 - 1階 車庫
 - 2階 倉庫
 - 3階 倉庫
- ⑤ 車庫及び駐輪場 車庫68.5㎡・駐輪場35.2㎡
構造：鉄骨平屋建

(2) 宮崎日赤会館

- ① 所在地 宮崎市別府町3番1号
- ② 構造 4階建（一部5階）1,557.83㎡
 - 1階 玄関ホール・貸室（テナント）
 - 2階 貸室（テナント）
 - 3階 貸室（テナント）
 - 4階 講習室・救護班休憩室・小会議室・ボランティア活動センター

(3) 宮崎県赤十字血液センター

- ① 所在地 宮崎市大字恒久885-1
- ② 敷地面積 4,594.0㎡
- ③ 本館棟 3階建 2,680.5㎡
 - 1階 採血準備室・供給作業室・フリーザー室・原料血液作業室・資材庫
ミーティング室・検診採血室
 - 2階 事務室・電算室（TV会議室）・小会議室・応接室・ミーティング室
食堂
 - 3階 大会議室・検診医局・研修室・ボランティア室・休養室・倉庫
- ④ 車庫棟 2階建 840.0㎡
- ⑤ プロパン棟 平屋建 10.96㎡

(4) 宮崎県赤十字血液センター橋通出張所（献血ルーム『カリーノ』）

- ① 所在地 宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎3階
- ② 床面積 469.64㎡

(5) 宮崎県赤十字血液センター延岡供給出張所

- ① 所在地 延岡市野田町3丁目6番3号
- ② 敷地面積 529.66㎡
- ③ 建物 平屋建 162.45㎡

(6) 山林

- ① 所在地 宮崎市高岡町浦之名小田元・川谷・小川路
- ② 面積 53.34ha

この山林は、支部資金造成のため、明治39年2月19日に県から払い下げを受け、支部事業として全国に先駆けて造林したもので、昭和21年8月から23年9月まで3回にわたり立木を県立宮崎病院戦後復興資材等として売却しました。

次いで、昭和23年10月23日、県行造林として造林及び管理を宮崎県に委託しており、平成12年11月には伐期を迎えた7haの杉、松の販売（分収）が行われました。

(7) 日赤霧島の家

- ① 所在地 霧島市霧島田口宇鉢池2668-125
- ② 敷地面積 455㎡
- ③ 建物 2階建 75㎡

日本赤十字社宮崎県支部の現勢

(特に断りのない統計数字等は令和3年4月1日現在)

1 沿革

明治22年(1889) 9.26 日本赤十字社宮崎委員部として設置(県庁内)
 明治29年(1896) 7.1 日本赤十字社宮崎支部に改称
 明治33年(1900) 3.31 事務所、救護員養成所設置
 昭和5年(1930) 9. 再び県庁内に移転
 昭和16年(1941) 3.14 現在地に移転
 昭和30年(1955) 8.5 診療所開設
 昭和35年(1960) 7. 診療所廃止
 昭和36年(1961) 3. 災害救助物資倉庫新設
 昭和44年(1969) 3. 移動診療所を開設
 県からの委託事業「無医地区巡回診療」を開始
 昭和52年(1977) 10.18 赤十字ベトナムの家開設
 昭和58年(1983) 2.2 災害物資倉庫全面増築
 昭和63年(1988) 11.30 支部庁舎増築
 平成6年(1994) 10.4 赤十字ベトナムの家閉鎖
 令和3年(2021) 3.31 移動診療所の廃止

2 会員(令和3年4月1日)

個人 1,175人
 法人 1,044法人

3 評議員 33人

4 役員等

支部長 河野 俊嗣(宮崎県知事)
 副支部長 日隈 俊郎(宮崎県副知事)
 本社理事 田代 知代
 代議員 田代 知代・夏田 康則・岸上 照夫
 監査委員 鳥山 浩・柿木原康雄・吉田 敏春

5 青少年赤十字

幼稚園・保育所	40	2,225
小学校	75	23,482
中学校	39	7,033
高等学校	8	850
計	162	33,590

6 赤十字奉仕団

地域	33団	2,346
青年	1団	45
特殊	5団	1,336
計	39団	3,727

7 看護師等の養成

日本赤十字社九州国際看護大学(支部長推薦) 2人

8 災害等救援

常備救護班	8班 48人
無線局(基地局)	4局
無線局(移動局)	35局
アマチュア無線	9局
救護車両	6台
災害救援物資	14,671点

9 血液事業(令和3年3月31日)

施設数			
血液センター	1		
橋通出張所(献血ルーム)	1		
延岡供給出張所	1		
献血者数(人)	供給数(単位)		
成分献血	12,138	赤血球製剤	56,158
400mL献血	29,420	血漿製剤	15,635
200mL献血	141	血小板製剤	70,920
計	41,699	計	142,713

10 会計(支部令和3年度予算)

171,013,000円(うち社資収入135,000,000円)

11 施設及び職員

	部署数	職員数(人)
支部事務局	2課	11
血液センター	1部5課2出張所	83

12 宮崎県日赤有功会(会長 鳥山 浩)

個人会員 145人
 法人会員 195法人

日本赤十字社宮崎県支部地区区分一覽

	電 話	FAX	〒	住 所	日赤事務の所掌	
宮 崎 市	0985-21-1885	0985-20-3215	880-8505	宮崎市橋通西1-1-1	宮崎市 福祉部 福祉総務課	
宮崎市田野区	0985-86-2017	0985-86-4049	889-1701	宮崎市田野町甲2848-1	宮崎市社会福祉協議会 田野支所	
宮崎市佐土原区	0985-36-2020	0985-36-2024	880-0303	宮崎市佐土原町東上那珂12948-1	宮崎市社会福祉協議会 佐土原支所	
宮崎市高岡区	0985-82-4721	0985-82-4726	880-2222	宮崎市高岡町内山2877	宮崎市社会福祉協議会 高岡支所	
宮崎市清武区	0985-55-6207	0985-64-5321	889-1604	宮崎市清武町西新町8-6	宮崎市社会福祉協議会 清武支所	
都 城 市	0986-23-2980	0986-24-1188	885-8555	都城市姫城町6-21	都城市 福祉部 福祉課	
山之口	0986-57-3112	0986-57-4142	889-1802	都城市山之口町花木2005	都城市山之口総合支所 市民生活課	
高 城	0986-58-2311	0986-58-4281	885-1202	都城市高城町穂満坊306	都城市高城総合支所 市民生活課	
山 田	0986-64-1111	0986-64-1642	889-4601	都城市山田町山田3881	都城市山田総合支所 市民生活課	
高 崎	0986-62-1111	0986-62-4242	889-4505	都城市高崎町大牟田1150-1	都城市高崎総合支所 市民生活課	
延 岡 市	0982-22-7017	0982-21-0203	882-8686	延岡市東本小路2-1	延岡市役所 こども家庭課	
北 方	0982-47-3601	0982-47-2218	882-0125	延岡市北方町川水流卯682	延岡市北方総合支所 市民サービス課	
北 浦	0982-45-4228	0982-45-3065	889-0301	延岡市北浦町古江1930	延岡市北浦総合支所 市民サービス課	
北 川	0982-46-5012	0982-46-3393	889-0101	延岡市北川町7250	延岡市北川総合支所 市民サービス課	
日 南 市	0987-23-1191	0987-27-3533	887-0021	日南市中央通1-1-2	日南市社会福祉協議会 総務課	
北 郷	0987-55-2161	0987-55-3829	889-2402	日南市北郷町郷之原乙2005-1	日南市社会福祉協議会 北郷支所	
南 郷	0987-64-3270	0987-64-4835	889-3204	日南市南郷町中村乙7051-110	日南市社会福祉協議会 南郷支所	
小 林 市	0984-23-0111	0984-23-4934	886-8501	小林市細野300	小林市健康福祉部 福祉課	
須 木	0984-48-3111	0984-48-2269	886-0192	小林市須木中原1757	小林市須木庁舎 住民生活課	
野 尻	0984-44-1100	0984-44-0649	886-0292	小林市野尻町東麓1183-2	小林市野尻庁舎 住民生活課	
日 向 市	0982-52-2111	0982-54-4350	883-8555	日向市本町10-5	日向市健康福祉部 福祉課	
東 郷	0982-69-3367	0982-69-3320	883-0102	日向市東郷町山陰丙1412-1	日向市東郷町地域自治センター	
串 間 市	0987-72-1123	0987-72-0310	888-0001	串間市西方9365-8	串間市福祉事務所 串間市社会福祉協議会	
西 都 市	0983-32-1010	0983-41-1678	881-8501	西都市聖陵町2-1	西都市福祉事務所 高齢者福祉係	
え び の 市	0984-35-2800	0984-35-1983	889-4221	えびの市大字栗下67	えびの市社会福祉協議会 総務課	
北西諸島地区	三 股 町	0986-52-1246	0986-52-8194	889-1901	三股町大字樺山3384-2	三股町社会福祉協議会
	高 原 町	0984-42-2230	0984-42-4974	889-4412	高原町大字西麓360-1	高原町社会福祉協議会
	北西諸島	0986-23-4520	0986-21-0047	885-0017	都城市年見町14-1-1	宮崎県南部福祉こどもセンター
中部地区	国 富 町	0985-75-6267	0985-75-1279	880-1101	国富町大字本庄6889-2	国富町社会福祉協議会 法人事務局
	綾 町	0985-77-3099	0985-77-3027	880-1303	綾町大字南俣615	綾町社会福祉協議会 法人事務局
	中 部	0985-26-1551	0985-28-5894	880-0032	宮崎市霧島1-1-2	宮崎県中央福祉こどもセンター
児湯地区	高 鍋 町	0983-26-2028	0983-23-6303	884-8655	高鍋町大字上江8437	高鍋町 福祉課
	新 富 町	0983-33-6382	0983-33-4862	889-1493	新富町大字上富田7491	新富町 福祉課
	西米良村	0983-36-1212	0983-36-1540	881-1411	西米良村大字村所66-1	西米良村社会福祉協議会
	木 城 町	0983-32-2114	0983-32-2682	884-0102	木城町大字椎木2140-1	木城町社会福祉協議会
	川 南 町	0983-21-3802	0983-27-6704	889-1301	川南町大字川南13676-1	川南町社会福祉協議会
		0983-27-8007	0983-27-1767	889-1301	川南町大字川南13680-1	川南町役場 福祉課
	都 農 町	0983-25-0048	0983-25-4199	889-1201	都農町大字川北4910	都農町社会福祉協議会
	児 湯	0983-22-1404	0983-22-3736	884-0002	高鍋町大字北高鍋3870-1	宮崎県児湯福祉事務所
東臼杵地区	門 川 町	0982-63-1140	0982-63-1356	889-0696	門川町本町1-1	門川町 福祉課
	諸 塚 村	0982-65-0375	0982-65-0392	883-1301	諸塚村大字家代3066	諸塚村社会福祉協議会
	椎 葉 村	0982-67-2275	0982-67-2282	883-1601	椎葉村大字下福良1762-1	椎葉村社会福祉協議会
	美 郷 町	0982-68-2900	0982-68-2008	883-1101	美郷町西郷区田代29-1	美郷町社会福祉協議会
	美郷町分区分西郷	0982-66-2464	0982-66-2465	883-1101	美郷町西郷区田代1663	美郷町社会福祉協議会西郷事業所
	美郷町分区分北郷	0982-62-6191	0982-62-5272	889-0901	美郷町北郷区字納間440	美郷町社会福祉協議会北郷事業所
	美郷町分区分南郷	0982-59-0787	0982-68-4073	883-0306	美郷町南郷区神門1075	美郷町社会福祉協議会南郷事業所
	東 臼 杵	0982-35-1700	0982-35-1701	882-0803	延岡市大貫町1-2845	宮崎県北部福祉こどもセンター
西臼杵地区	高千穂町	0982-72-3663	0982-72-3672	882-1101	高千穂町大字三田井750-7	高千穂町社会福祉協議会
	日之影町	0982-87-2680	0982-87-2750	882-0401	日之影町大字七折8840	日之影町社会福祉協議会 地域福祉係
	五ヶ瀬町	0982-82-1520	0982-82-0387	882-1203	五ヶ瀬町大字三ヶ所10725-5	五ヶ瀬町社会福祉協議会
	西 臼 杵	0982-72-2193	0982-72-5082	882-1101	高千穂町大字三田井22	宮崎県西臼杵支庁福祉課

目指す姿

国内外における人道支援活動の“要”となり、
わが国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字

長期戦略

事業戦略

災害や紛争時における支援の充実とレジリエンスの強化
超少子高齢社会における地域の健康・安全な生活の追求
多様化が進む社会における人道の輪の拡大

運動基盤強化戦略

会員の赤十字運動への参画促進
奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充
国際赤十字との更なる協働



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

宮崎県支部

〒880-0802 宮崎市別府町3番1号

TEL 0985-22-4045

FAX 0985-22-4178

E-mail miyazaki-info@miyazaki.jrc.or.jp

日本赤十字社宮崎県支部

検索